

電動ジャンボスライドAL型

取付説明書

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味


警告

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。


注意

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号


ポイント

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。



- 取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。


補足

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>


警告

- 門扉は人や車が入り出すためのものです。構造によって開閉する方法が異なりますので、設置の場所・目的に合わせて選択してください。


注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

<施工上のご注意>


注意

- ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- アルミ製品が亜鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 腐食のおそれのある接着剤や化学製品を使用する場合は、製品と接触しないようにするか、接触する部分を完全に養生してください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は、ボルト、ネジなどにゆるみがないか確認してください。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- 扉走行床面は水平に仕上げてください。

<施工上のご注意>

⚠ 注意

- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めています。現場によって（堅牢な地盤、軟弱な地盤など）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。
- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、工事中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。
- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。

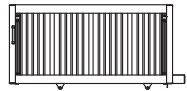
<電気配線工事について>

⚠ 注意

- AC100Vの電線の埋設工事、配線作業に関しては、電気工事店の有資格者に依頼してください。
- 電動柱は、第3種接地工事を行なってください。

■梱包明細表

【1】 本体セット

名 称	略 図	員 数	
		片引き	両引き
引戸本体		1	2
転倒防止金具		4	8
前ストッパー (G.L.)		1	2
後部ストッパー (G.L.)		1	2

【1】 本体セット（つづき）

名 称	略 図	員 数	
		片引き	両引き
落とし棒受けパイプ		2	4
【1-1】 M10×40 あと施工アンカー（めねじ）		2	4
【1-2】 M10×25六角ボルト		2	4
【1-3】 M10バネ座金		2	4
【1-4】 M10平座金		2	4
【1-5】 φ10×60 あと施工アンカー（おねじ）		2	4
【1-6】 M6×15座金組込 六角ボルト (PW+SW)		8	16
取付説明書<D470>	—	1	1
取扱説明書<UD098>	—	1	1

【2】電動柱セット

名 称	略 図	員 数	
		片引き	両引き
電動柱セット		1	2
ベースプレート		1	2
電動柱固定アングル		1	2
電動柱固定アングル (スイッチカバー、六角棒レンチ付)		1	2
埋設ケーブルカバー		1	2
マグネットスイッチ		2	4
押えローラーセット		1	2
アンテナ		1	2
配線取入口カバー		1	2
リモコン送信器		1	2
【2-1】 M8×20座金組込 六角ボルト (PW+SW)		8	16
【2-2】 M8×15座金組込 六角ボルト (PW+SW)		4	8
【2-3】 φ4×12 トラスタッピンネジ		8	16
【2-4】 M4×8座金組込 ナベネジ (PW+SW)		4	8
【2-5】 M6×15座金組込 六角ボルト (PW+SW)		4	8

【3】センサー柱セット

名 称	略 図	員 数	
		片引き	両引き
センサー柱 (投光側)		2	2
センサー柱 (受光側)		2	2
柱キャップ		4	4
センサーフード		4	4
【3-1】 φ4×10トラスタッピンネジ		24	24

【4】センサーケーブルセット

名 称	略 図	員 数	
		片引き	両引き
センサーケーブル		2	2
連結ケーブル		—	1

【5】リモコン送信器セット

オプション

名 称	略 図	員数
リモコン送信器		1
取扱説明書	—	1
保証書	—	1

【6】アンテナ延長ケーブルセット

オプション

名 称	略 図	員数
延長ケーブル		1
アンテナ取付金具		1
φ3.5×20木ネジ		2

1. 基本納まり寸法

1-1 片開き ※()内寸法はレール外寸650mmを示します。

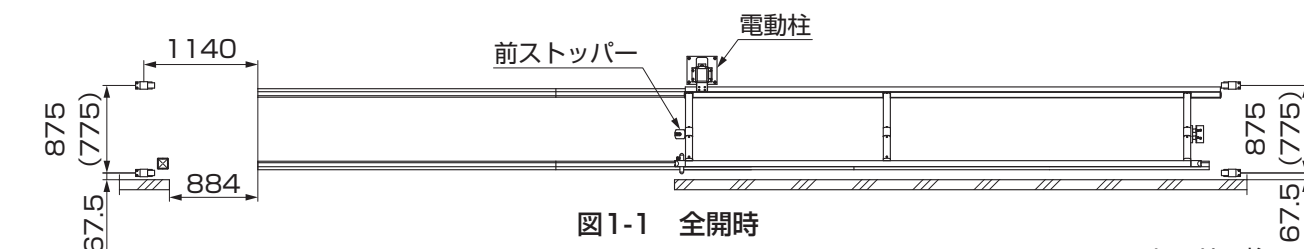


図1-1 全開時

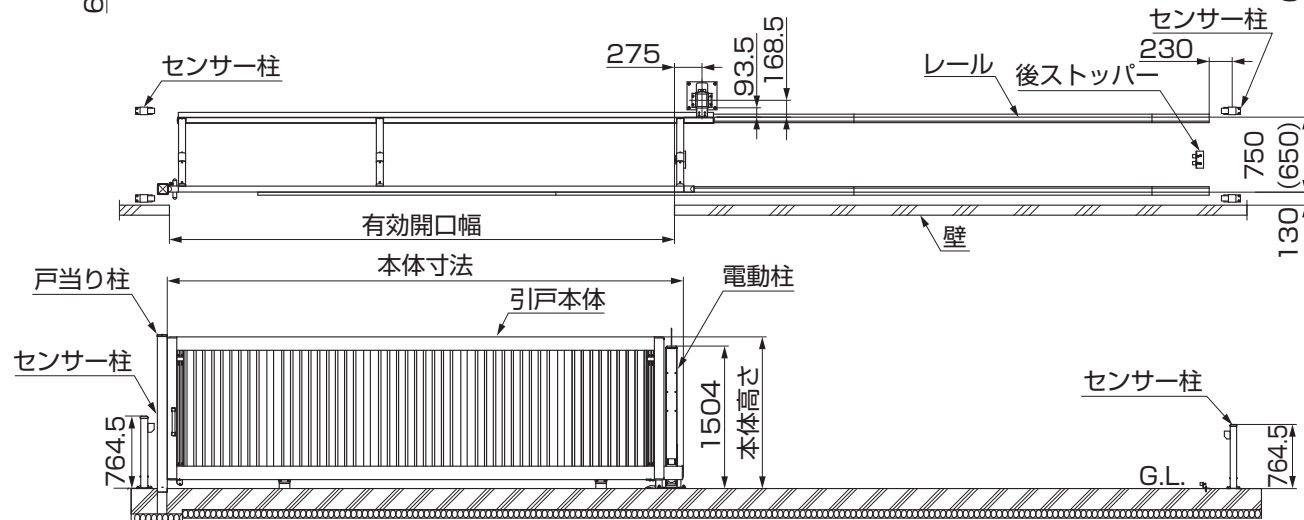


図1-2 全閉時

表1-1

呼称	有効開口幅	本体寸法
W30	3000	3402
W40	4025	4427
W50	5050	5452
W60	6075	6477
W70	7100	7502
W80	8125	8527
W90	9150	9552
W100	10175	10577

表1-2

呼 称	本体高さ	本体幅	
		A・Bタイプ	Cタイプ
H12	1200	647.5	—
H14	1400	647.5	683
H16	1600	747.5	683
H18	1800	747.5	783
H20	2000	—	783

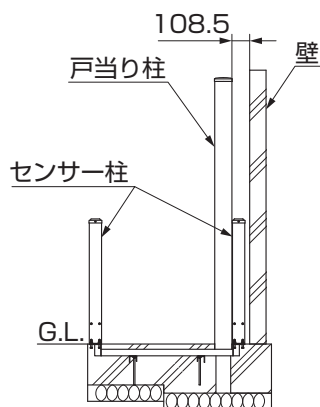


図1-3

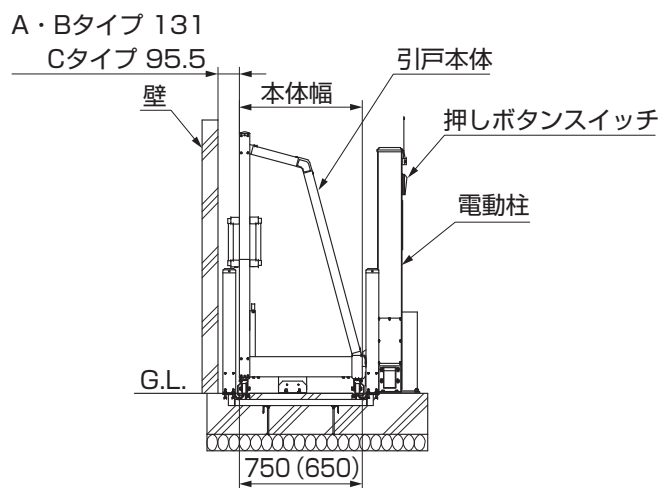


図1-4

1-2 両開き ※ () 内寸法はレール外寸650mmを示します。

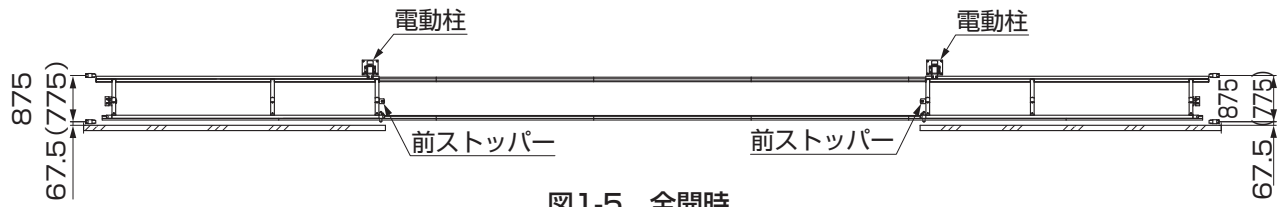


図1-5 全開時

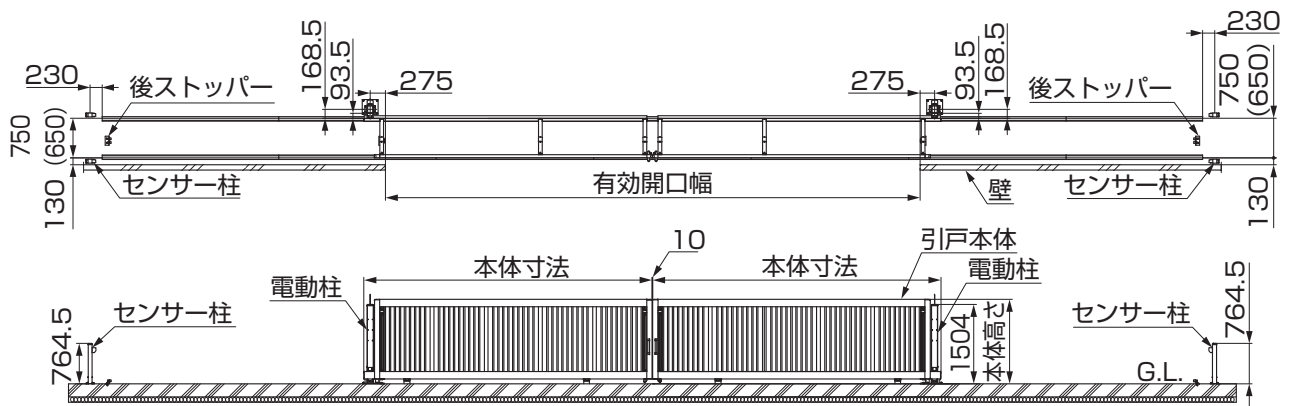


図1-6 全閉時

表1-3

呼称	有効開口幅	本体寸法
W30-30	6018	3402
W40-40	8068	4427
W50-50	10118	5452
W60-60	12168	6477
W70-70	14218	7502
W80-80	16268	8527
W90-90	18318	9552
W100-100	20368	10577

表1-4

呼 称	本体高さ	本体幅	
		A・Bタイプ	Cタイプ
H12	1200	647.5	—
H14	1400	647.5	683
H16	1600	747.5	683
H18	1800	747.5	783
H20	2000	—	783

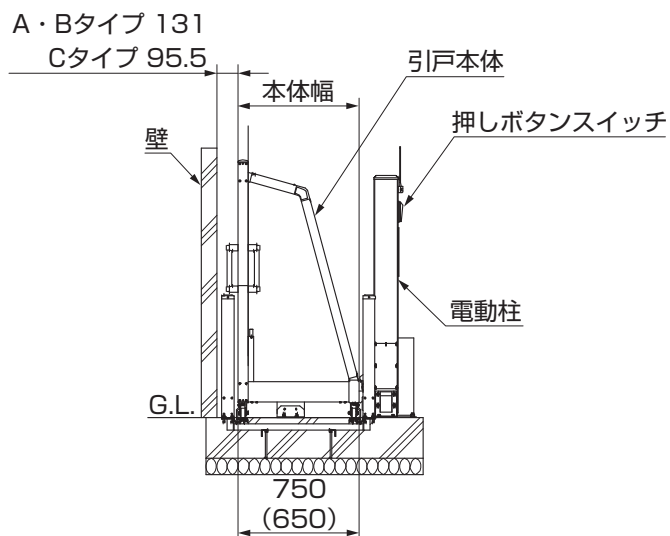
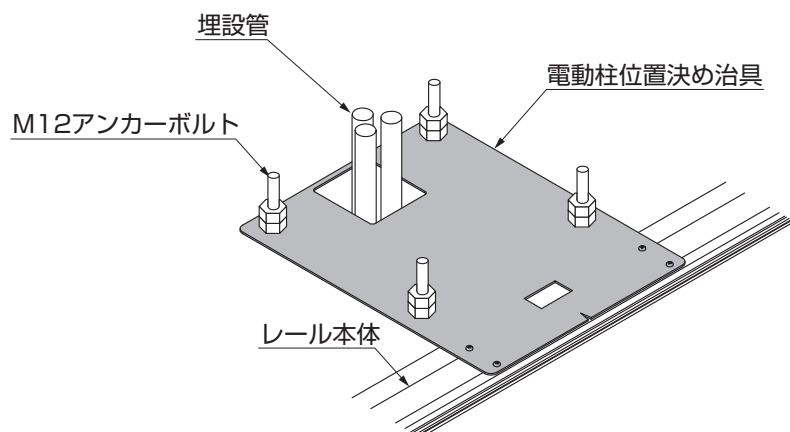
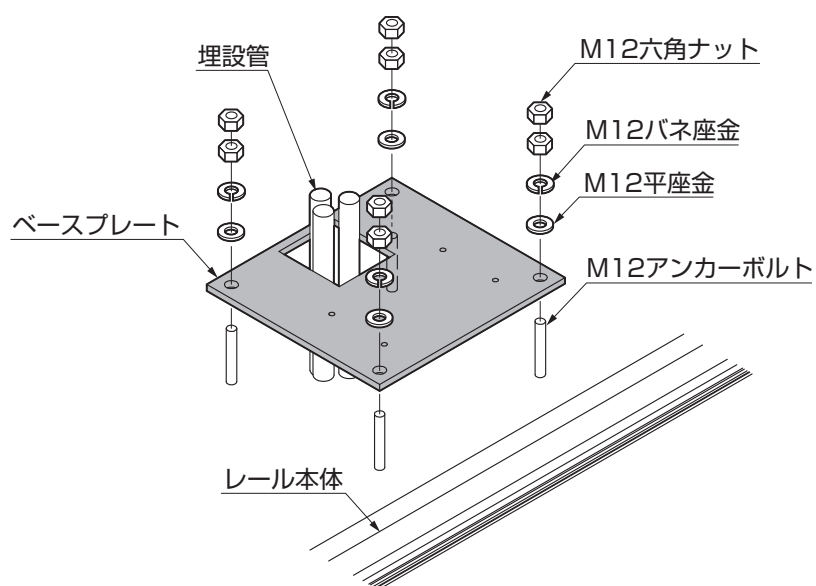


図1-7

2. ベースプレートの取付け



- ①あらかじめ取付いているM12六角ナット、M12バネ座金、M12平座金をはずして、電動柱位置決め治具を取り外してください。



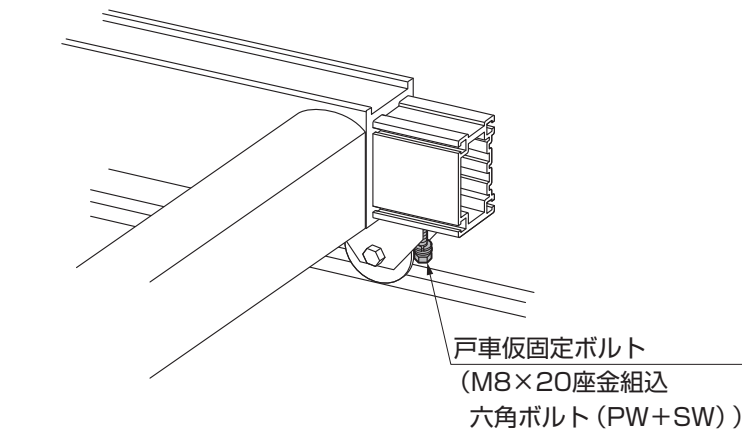
- ②取付いていたM12六角ナット、M12バネ座金、M12平座金でベースプレートを取付けてください。

補足

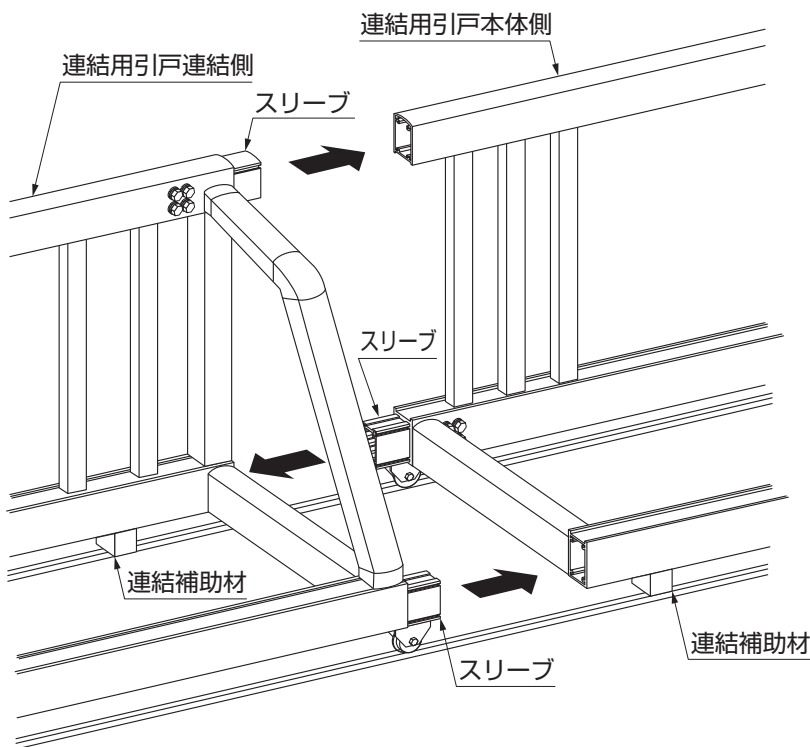
- M12六角ナット、M12バネ座金、M12平座金は電動柱位置決め治具に取付いているものを使用してください。

3. 本体の連結 ※連結仕様のみの作業です。

①戸車仮固定ボルトを緩めて取外してください。



②連結用引戸本体側から突起しているスリーブを連結用引戸連結側に連結用引戸連結側から突起しているスリーブを連結用引戸本体側にそれぞれ差込んでください。



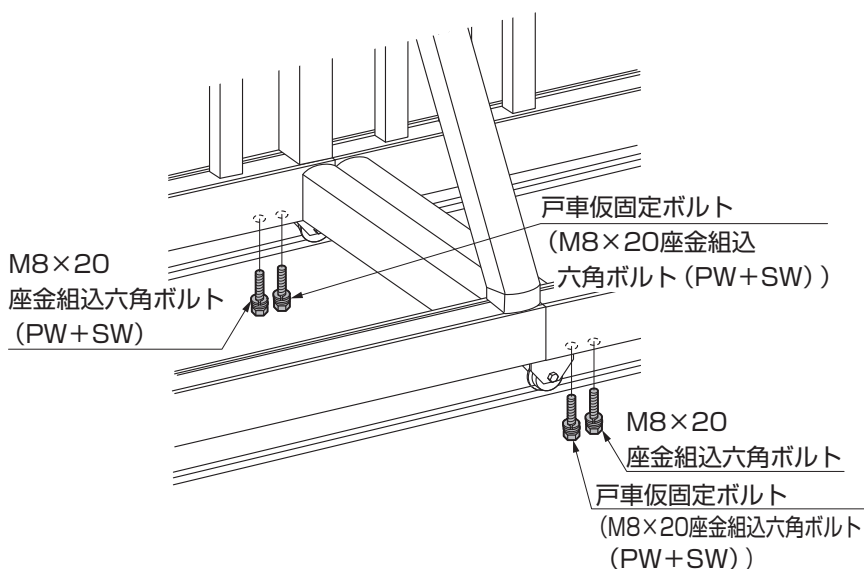
ポイント

- スリーブを差込むときは、連結用引戸連結側を動かして差込んでください。
- 連結用引戸本体側はブレーキ機構が付いているため把手を傾けブレーキを解除しないと動かせません。

③戸車を①で取外した戸車仮固定ボルトで取付けてください。

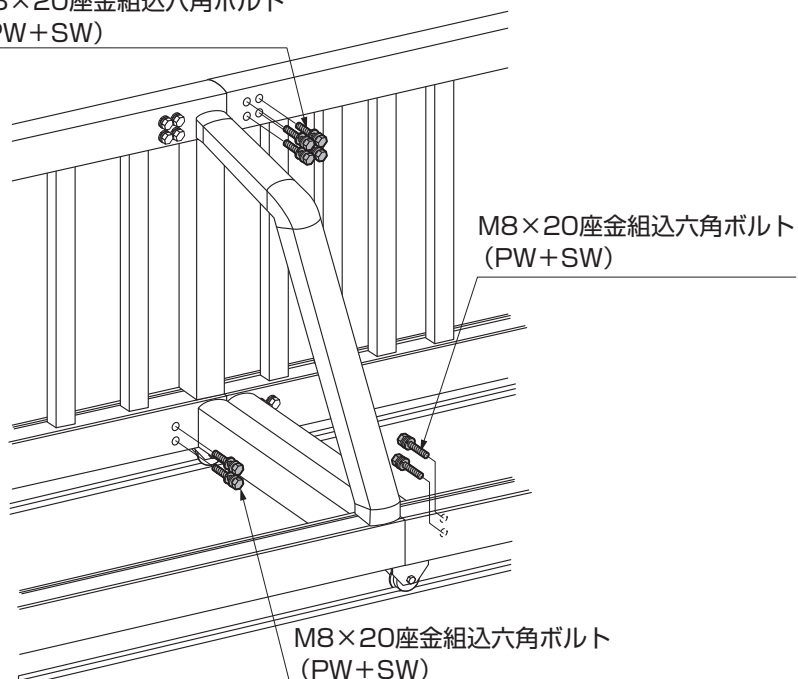
④連結補助材を外してください。

⑤引戸を「M8×20座金組込六角ボルト (PW+SW)」で連結してください。



3. (つづき)

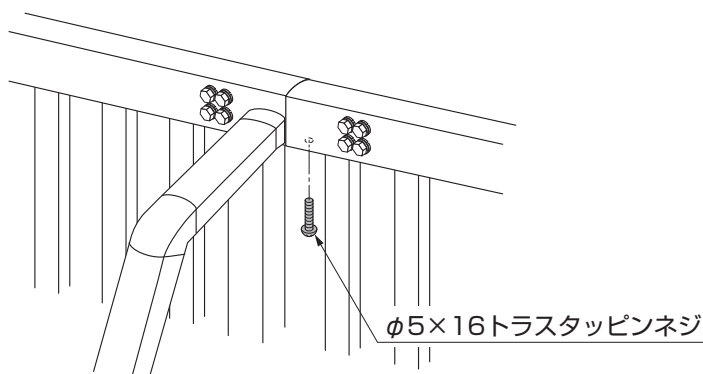
M8×20座金組込六角ボルト
(PW+SW)



⑥引戸を「M8×20座金組込六角ボルト
(PW+SW)」で連結してください。

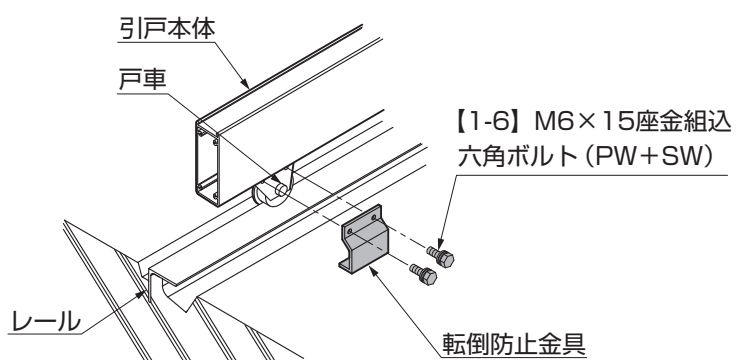
4. パネル端部の連結

※Bタイプ・Cタイプ連結仕様のための作業です。



①パネル端部を「φ5×16トラスタッピンネジ」で連結してください。

5. 転倒防止金具の取付け



①引戸本体をレールに乗せた後、転倒防止金具を【1-6】で取付けてください。

6. 電動柱の取付け

6-1 電動柱固定アングルの取付け

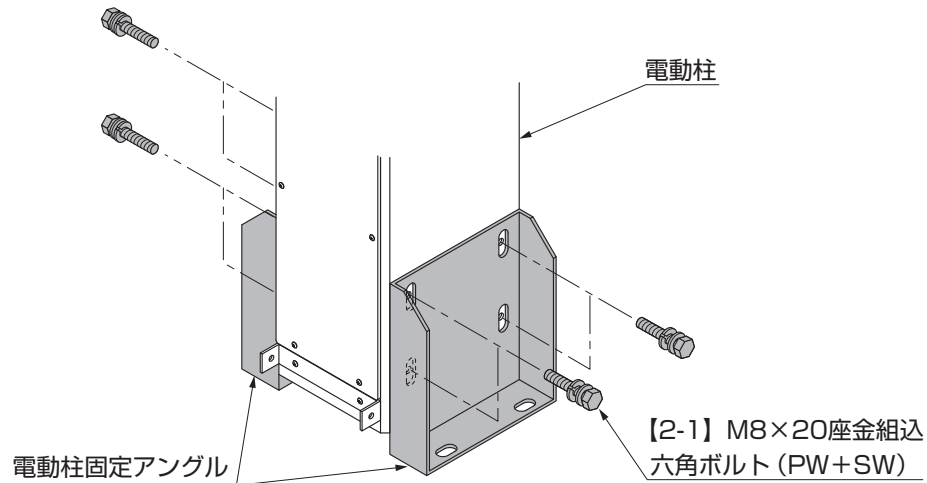


図6-1

①電動柱に電動柱固定アングルの【2-1】で仮止めしてください。

ポイント

●電動柱固定アングルはベースプレートに取付けるまでの間は、仮止め状態にしてください。

6-2 電動柱の取付け

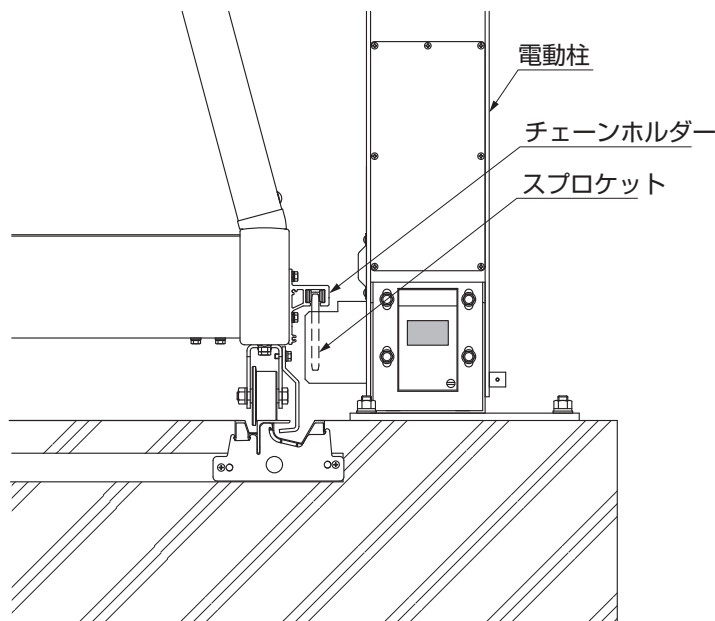


図6-2

①電動柱のスプロケットがチェーンホルダーにぶつからないようにチェーンホルダーの下側からスプロケットをチェーンホルダーに挿入してください。

ポイント

●スプロケットをチェーンホルダーにぶつけると、スプロケットが破損するおそれがあります。スプロケットが破損すると引戸の開閉ができなくなります。

6. (つづき)

6-3 電動柱の固定

【2-2】 M8×15座金組込
六角ボルト (PW+SW)

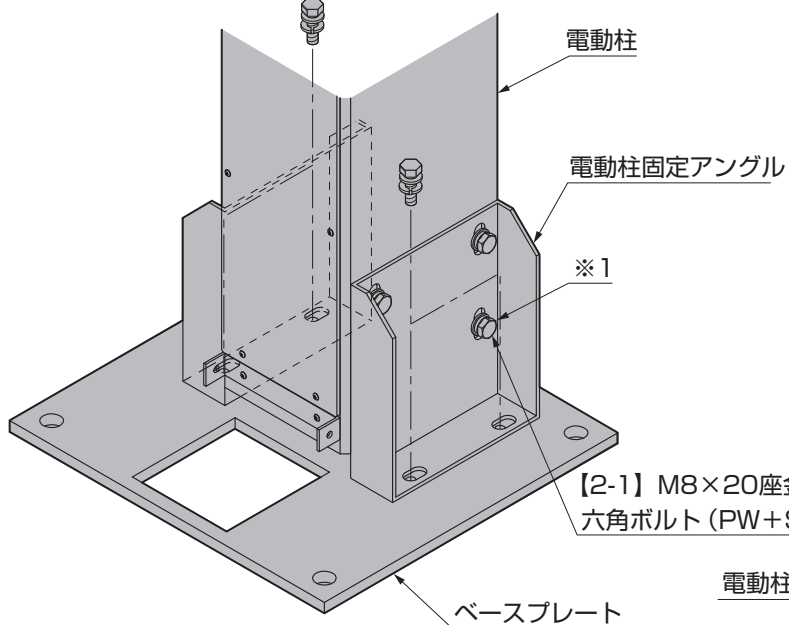


図6-3

【2-1】 M8×20座金組込
六角ボルト (PW+SW)

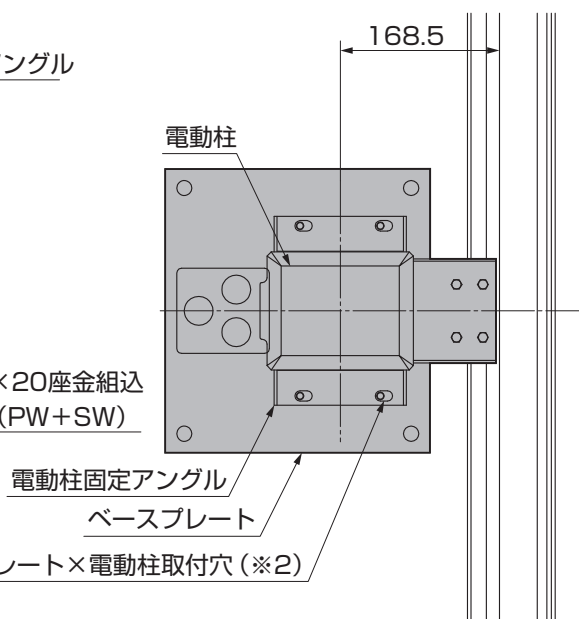


図6-4

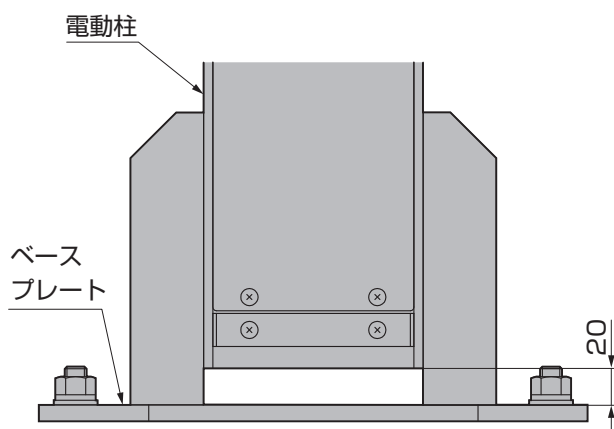


図6-5

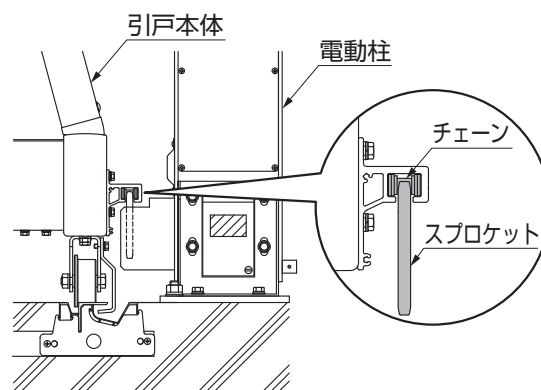


図6-6

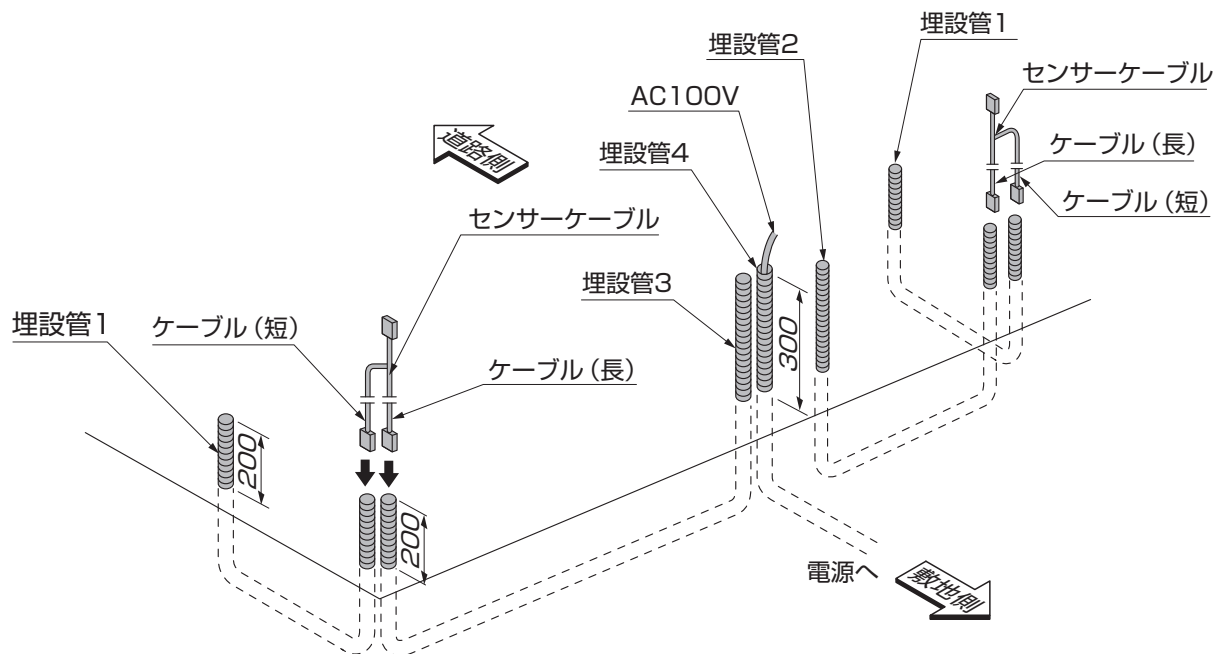
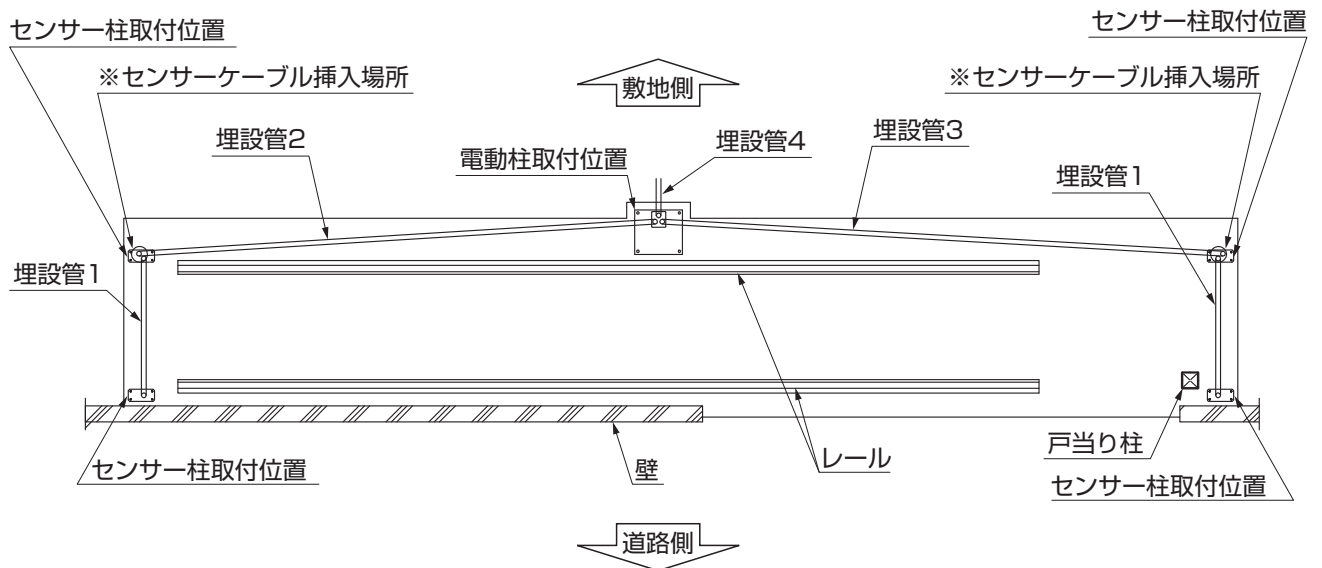
- ①電動柱をベースプレートに【2-2】で固定してください。
- ②電動柱を垂直にしてから、仮止めしてある【2-1】を固定してください。その際、スプロケットとチェーンが確実にかみあっているか、確認してください。

ポイント

- 電動柱固定アングル取付穴は長穴になっていますが、標準位置は長穴の中心(※1)になります。
- ベースプレートと電動柱のすき間は20mmになります。
- ベースプレート×電動柱取付穴は長穴になっていますが、長穴左側が標準取付位置(※2)になります。(図6-4参照)

7. ケーブルの配線方法

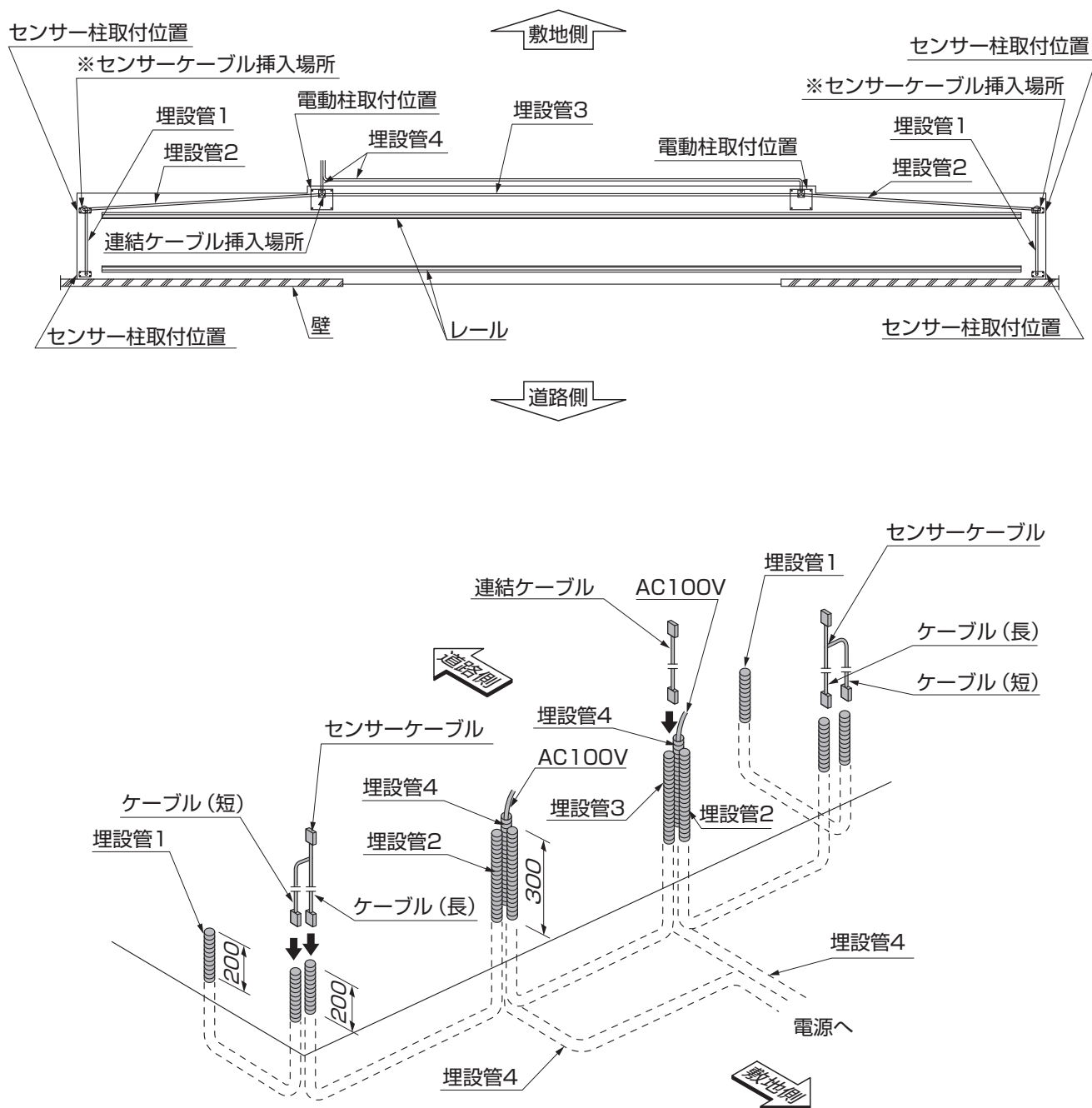
7-1 片開き



- ①センサーケーブル挿入場所から、センサーケーブルを埋設管に通してください。その際、短い方のケーブルを埋設管1に、長い方のケーブルを埋設管2、3に通してください。

7. (つづき)

7-2 両開き



- ① センサーケーブル挿入場所から、センサーケーブル、連結ケーブル挿入場所から連結ケーブルを埋設管に通してください。センサーケーブルは、短い方のケーブルを埋設管1に、長い方のケーブルを埋設管2に通してください。

8. センサー柱の取付け

8-1 センサー柱の取付け ※ () 内寸法はレール外寸650mmを示します。

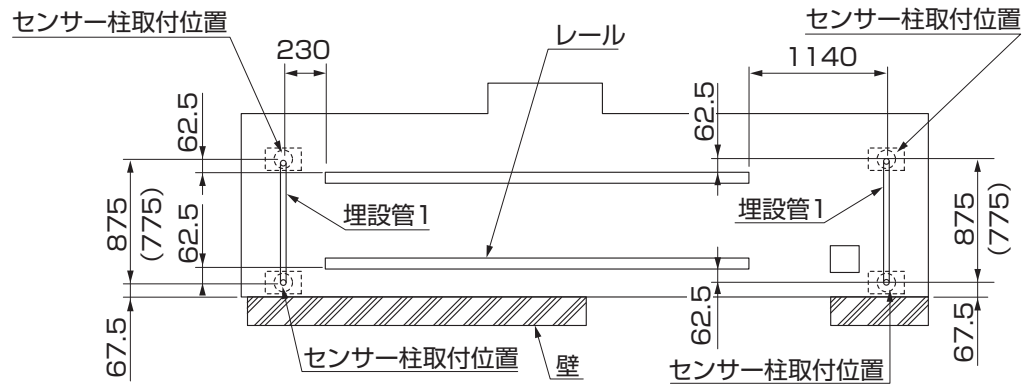


図8-1 片開き

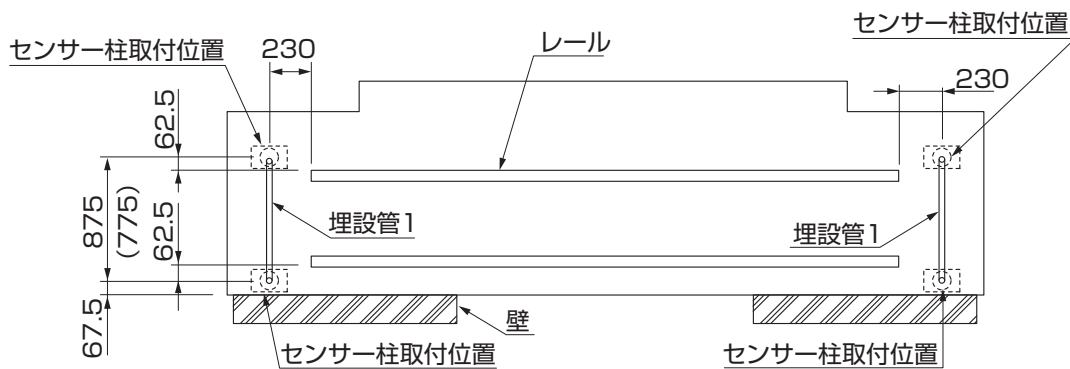


図8-2 両開き

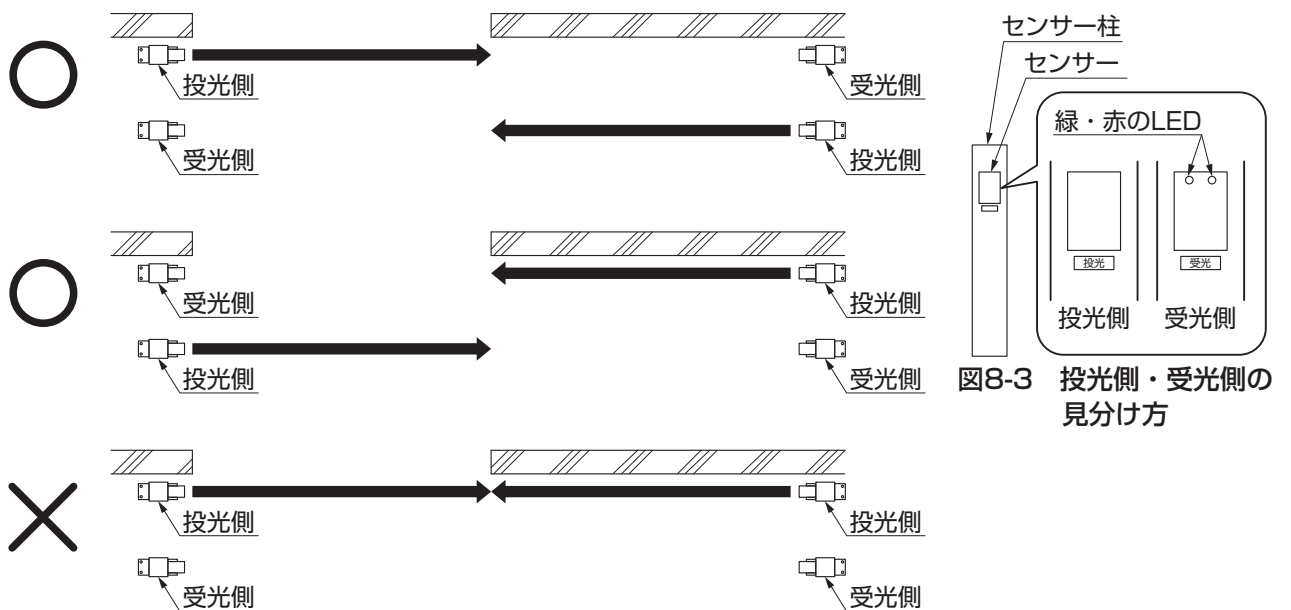


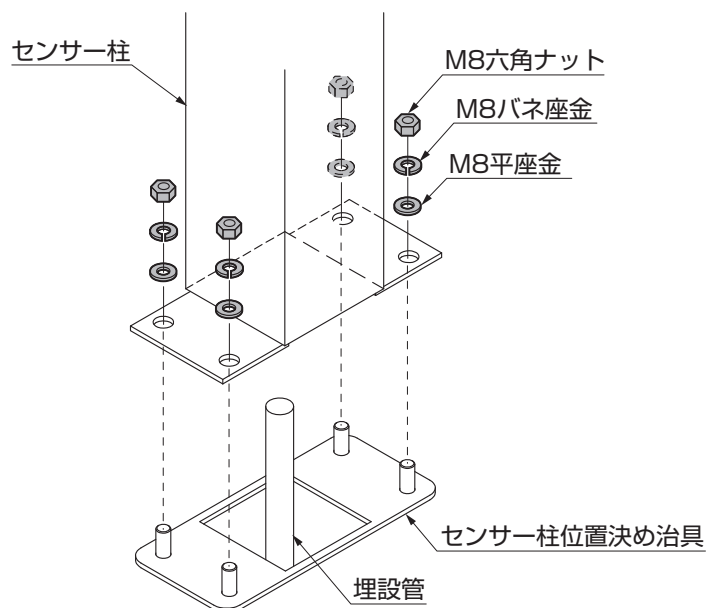
図8-3 投光側・受光側の見分け方

①センサー柱の投光側と受光側が、交互になるように取付けてください。

補足

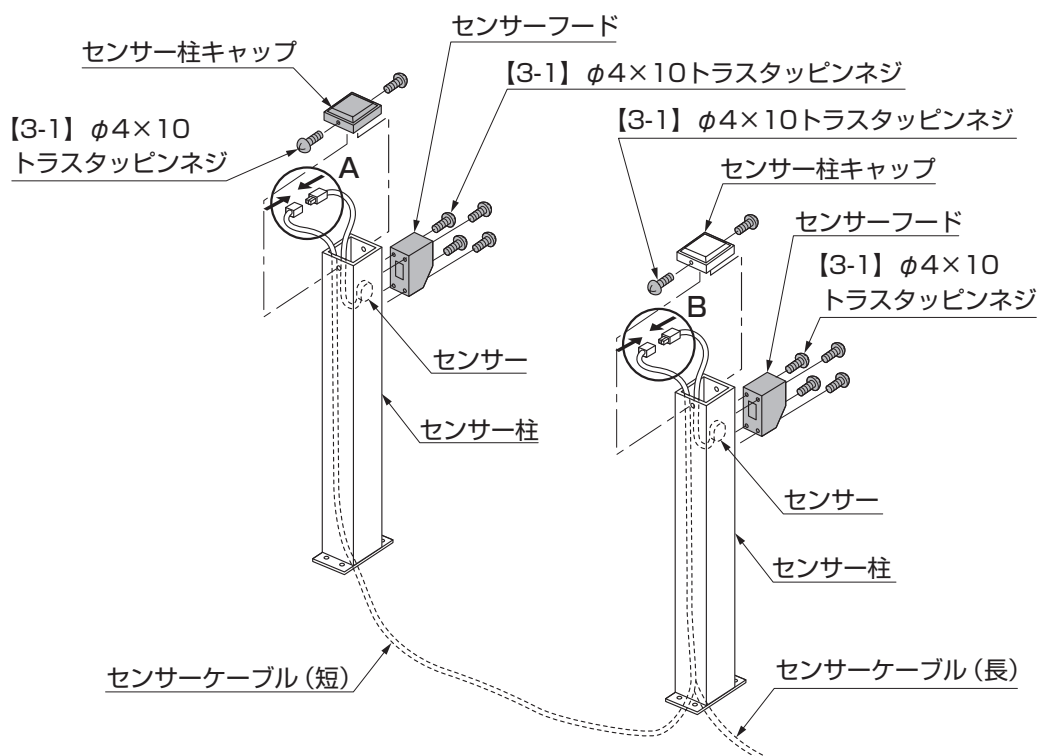
●センサー柱の投光側と受光側の見分け方は図8-3を参照してください。

8. (つづき)



- ①あらかじめ、センサー柱位置決め治具に取付いている、M8六角ナット、M8バネ座金、M8平座金でセンサー柱を固定してください。

8-2 配線および部品の取付け



- ①センサーフードを【3-1】で取付けてください。
②センサー柱キャップを【3-1】で取付けてください。

ポイント

- コネクターを必ず接続してください。接続したコネクターとコードを柱内部に納めてください。この時コネクターおよびコードは、センサーの後部に納めてください。(A・B部参照)

9. 前後ストッパーの取付け

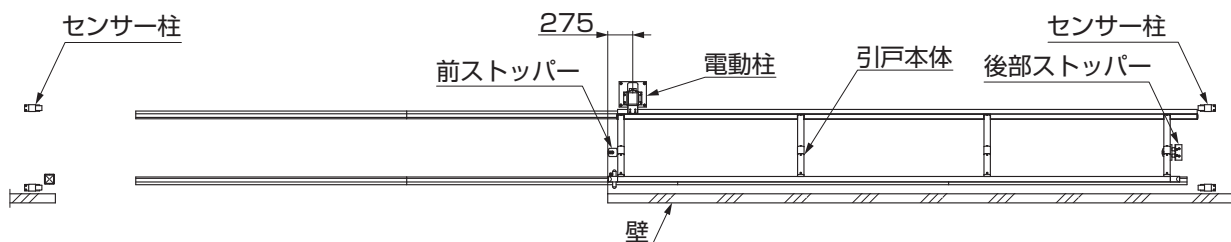


図9-1 全開時

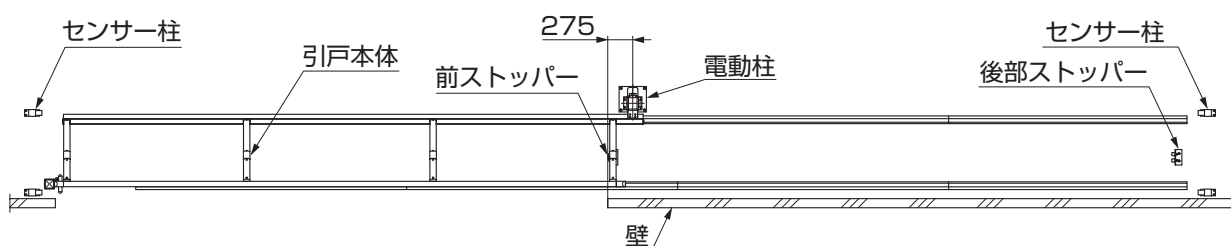


図9-2 全閉時

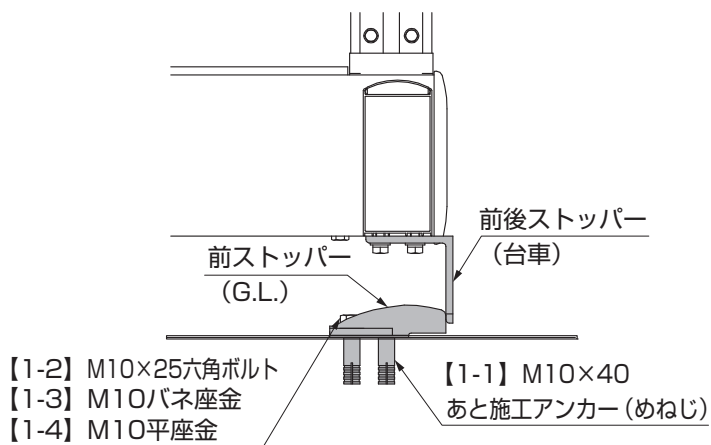


図9-3 全閉時

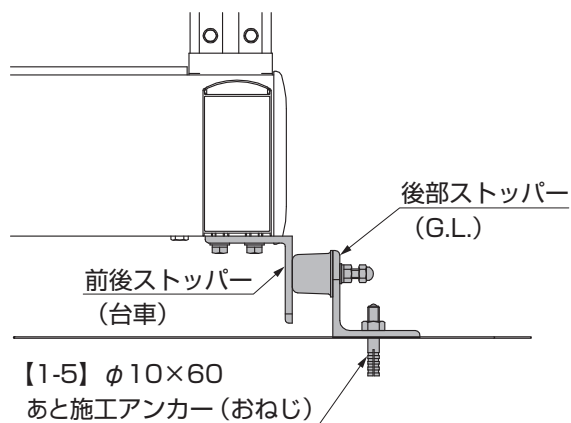
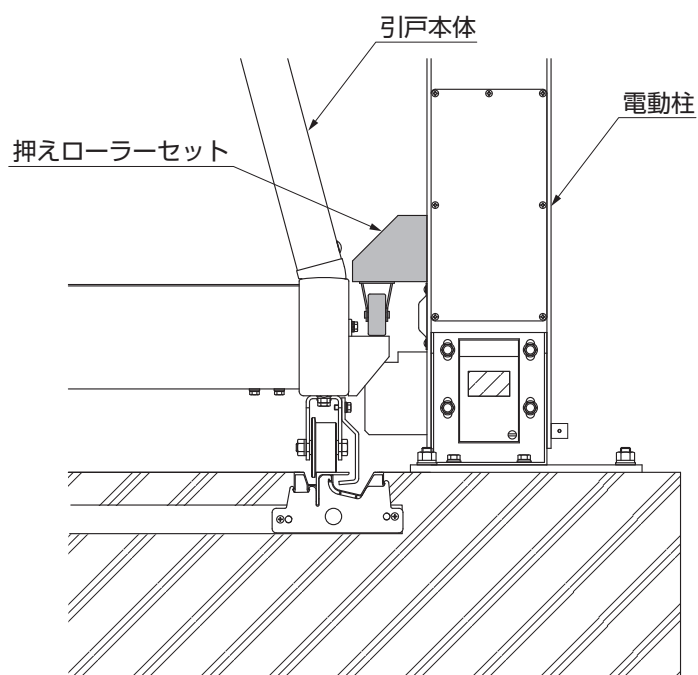
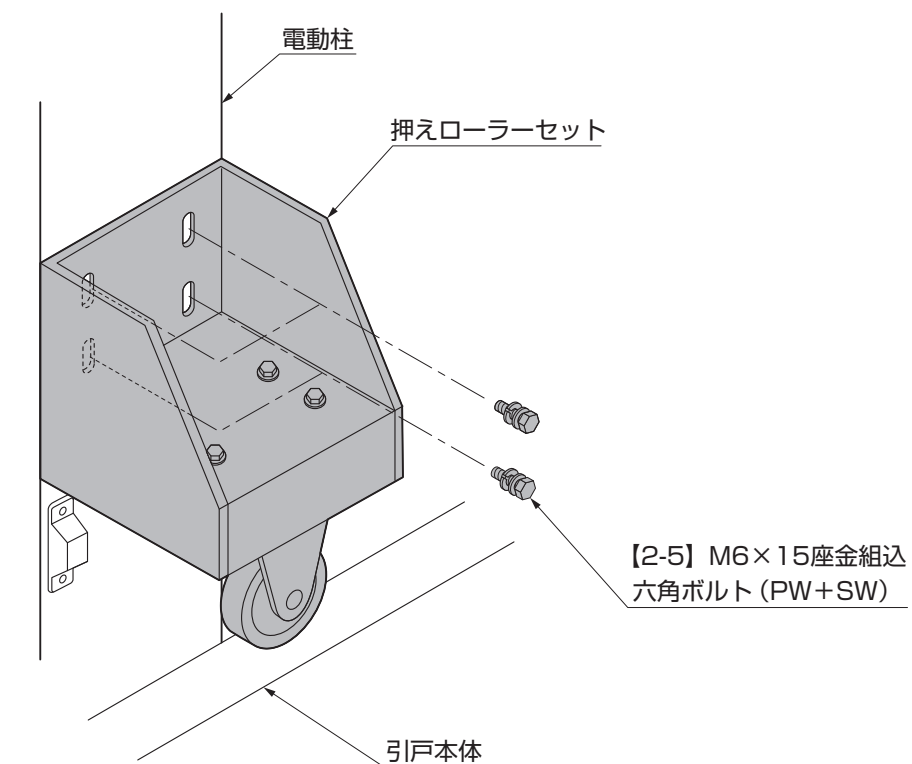


図9-4 全開時

①上記位置で引戸が停止するように、前ストッパー、後部ストッパーを取付けてください。

10. 押えローラーセットの取付け

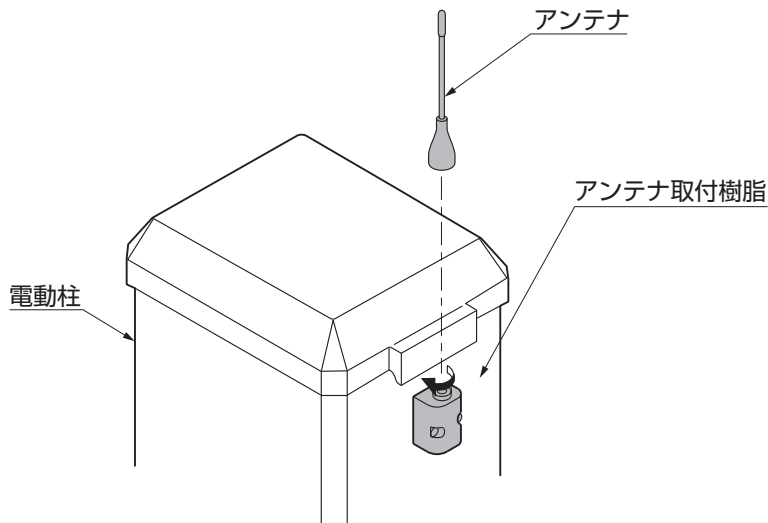


①引戸本体を押さえるように押えローラーセットを電動柱に【2-5】で取付けてください。

※使用環境の違いによりリモコン到達距離が短くなる場合があります。
その場合はオプションのアンテナ延長ケーブルセットをご使用ください。

11. アンテナの取付け

11-1 電動柱に取付ける場合



ポイント

- 延長ケーブルは3mあります。
アンテナを取付ける場所と電動柱の距離を確認してから取付けてください。

- ①アンテナをアンテナ取付樹脂に時計回りにまわして取付けてください。

11-2 延長ケーブルを使用する場合 オプション

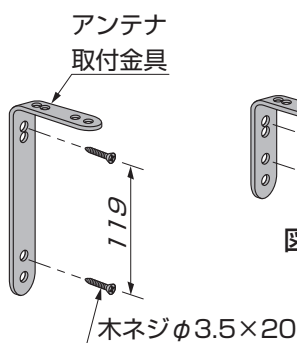
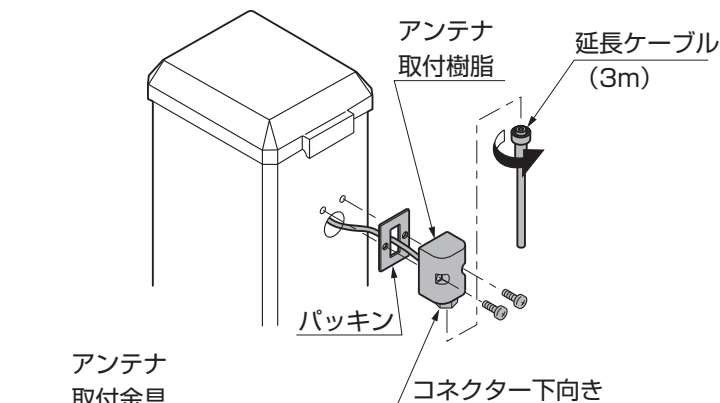
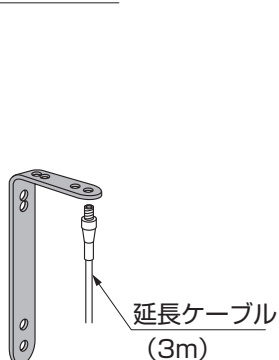


図11-1



図11-2



- ①アンテナ取付樹脂を外しコネクタが下向きになるように、再度取付けてください。
- ②延長ケーブルを取付けてください。

ポイント

- コネクタを下向きに付けない場合故障の原因になります。
- アンテナ取付樹脂は無理に引っ張らないでください。
- 延長ケーブルを取付ける場合には必ずアンテナ取付樹脂に取付けてください。

- ③アンテナ取付金具を壁に固定してください。

ポイント

- 取付金具をできるだけ高く金属の構造物から離れた位置に取付けてください。
- 金属に近い場合は図11-1のような取付けをしてください。(図11-1参照)
- 図11-2のように取付金具を取付けしないでください。(図11-2参照)

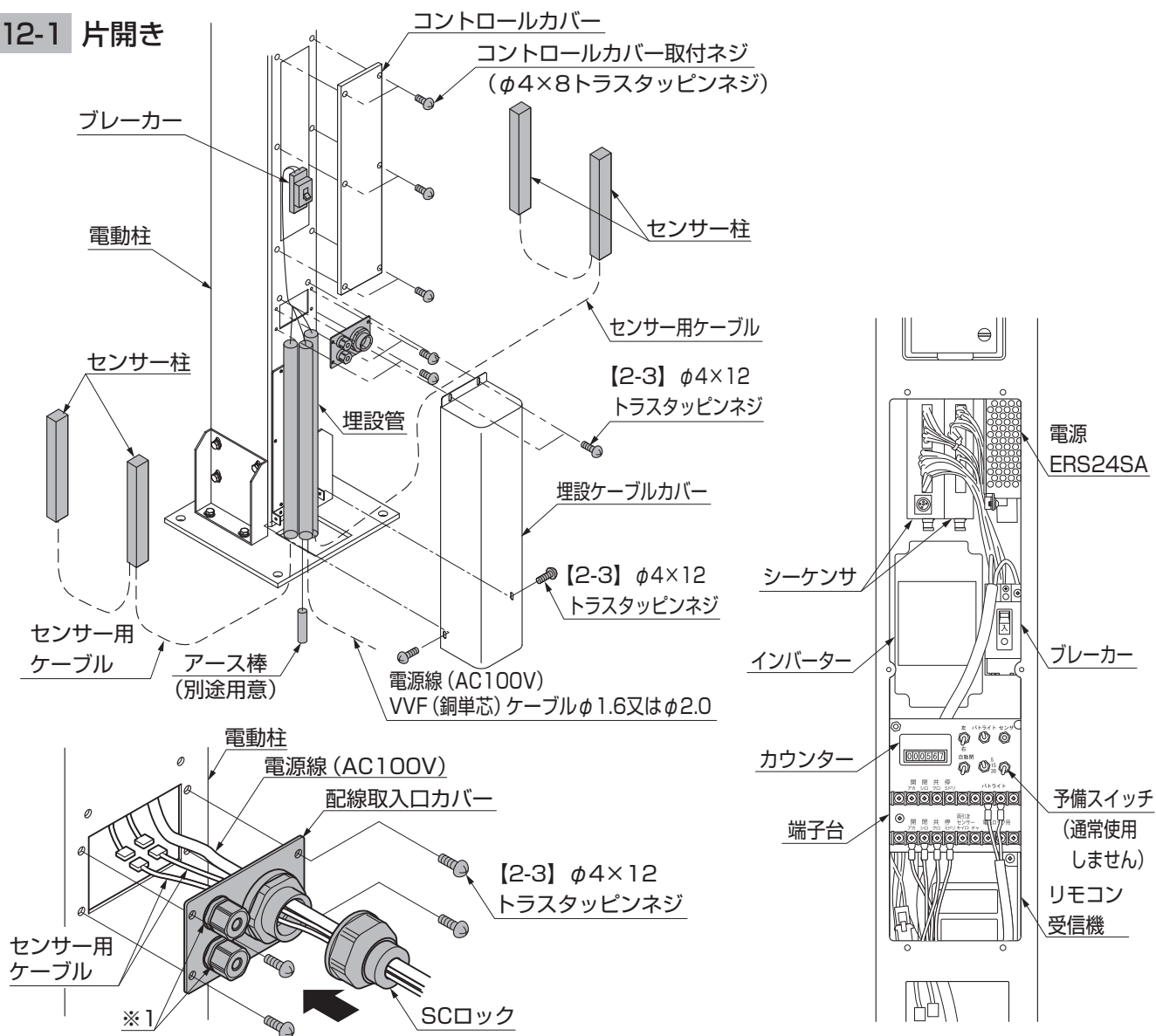
- ④アンテナ取付金具の穴に延長ケーブルを通し、アンテナを取付けてください。

12. 電動柱の配線方法

⚠ 注意

●電源線の施工、第3種接地工事は電気工事の有資格者に依頼してください。

12-1 片開き



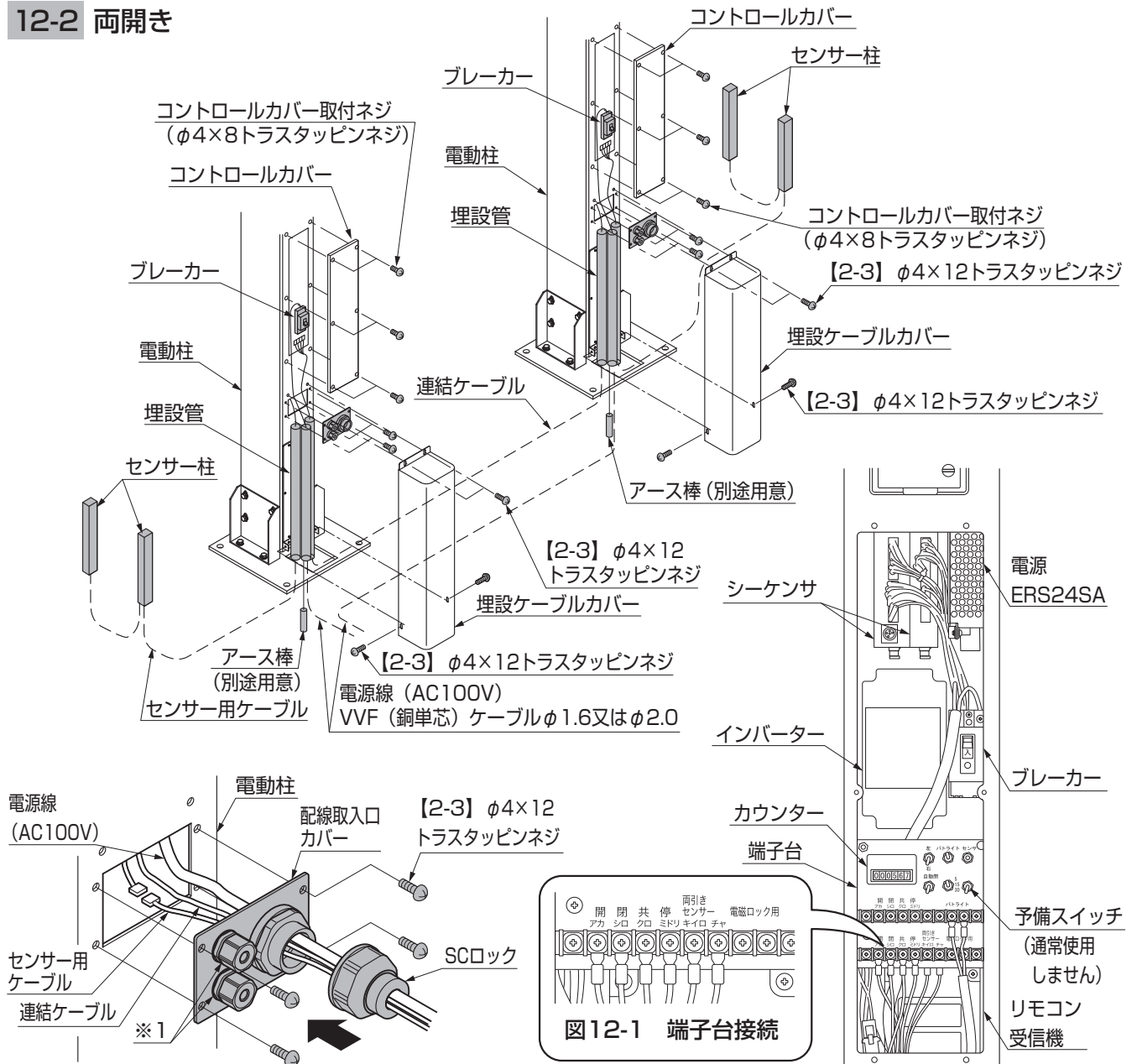
- ①コントロールカバー取付ネジ6個を緩めて取外し、コントロールカバーを取外してください。
- ②電源線 (AC100V) を柱の中に通し、ブレーカーにつないでください。
- ③各センサー柱につないでいるセンサー用ケーブルのコネクターを、SCロックの間にはさんで、電動柱から出ているコネクターに接続してください。その時、柱内にコネクターがくるようにしてください。(※コネクターは各センサー共通です)

🔑 ポイント

- パトライトなどの別売品を接続する場合は、※1の片側に配線してください。※1のSCロックには最大外径φ8mmまでの線が通せます。
- 外部押しボタンスイッチ **オプション** を取付ける時は、端子台の色表示と配線の色を合せて接続してください。(次ページを参照してください)
- 電磁ロック取付時には「電磁ロック用」に接続してください。

- ④第3種接地工事を行なってください。
- ⑤配線取入口カバーを【2-3】で電動柱に取付けてください。
- ⑥コントロールカバーをコントロールカバー取付ネジで埋設ケーブルカバーを【2-3】で電動柱に取付けてください。

12-2 両開き



- ①コントロールカバー取付ネジ6個を緩めて取外し、コントロールカバーを取外してください。
- ②電源線 (AC100V) を柱の中に通し、ブレーカーにつないでください。
- ③各センサー柱につないでいるセンサー用ケーブルのコネクターを、SCロックの間にはさんで、電動柱から出ているコネクターに接続してください。その時、柱内にコネクターがくるようにしてください。
- ④電動柱連結ケーブルをSCロックの間にはさんで柱の中を通し、外部押ボタンスイッチ用端子台につなげてください。

ポイント

- パトライトなどの別売品を接続する場合は、※1の片側に配線してください。※1のSCロックには最大外径φ8mmまでの線が通せます。
- 両引きの時は図12-1を参照し「両引きセンサー」の端子に接続してください。外部押しボタンスイッチを付ける時は、配線と端子台の色表示を合せて接続してください。(端子は上下2段使用できます)
- 電磁ロック取付時には「電磁ロック用」に接続してください。

- ⑤第3種接地工事を行なってください。
- ⑥配線取入口カバーを【2-3】で電動柱に取付けてください。
- ⑦コントロールカバーをコントロールカバー取付ネジで埋設ケーブルカバーを【2-3】で電動柱に取付けてください。

13. センサーについて

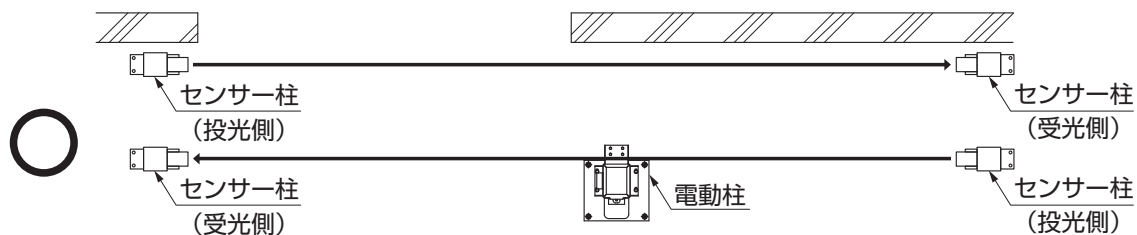


図13-1

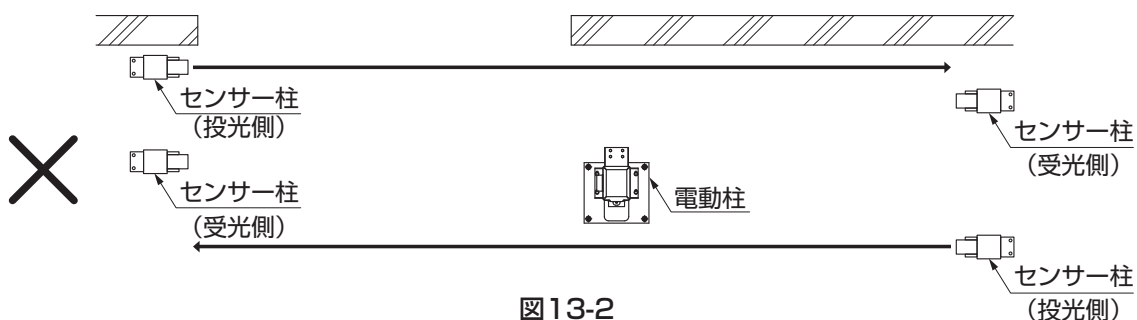


図13-2

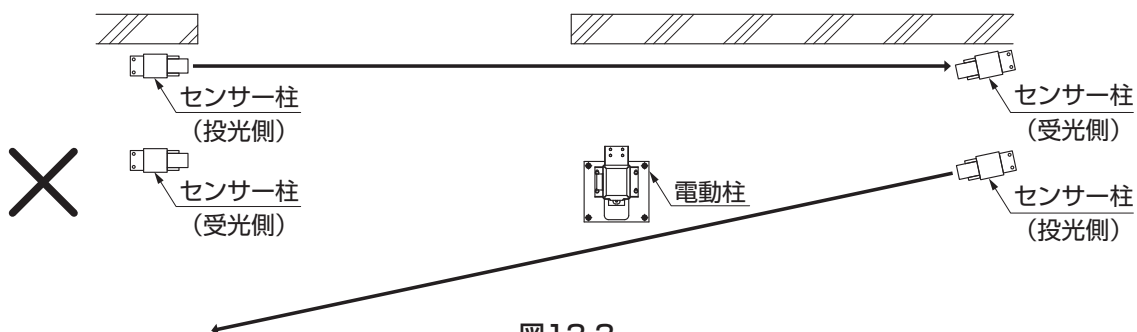


図13-3

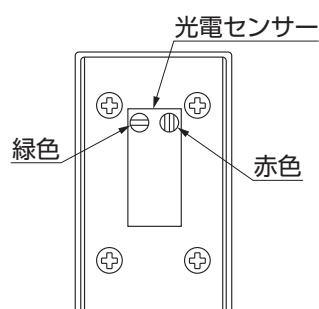


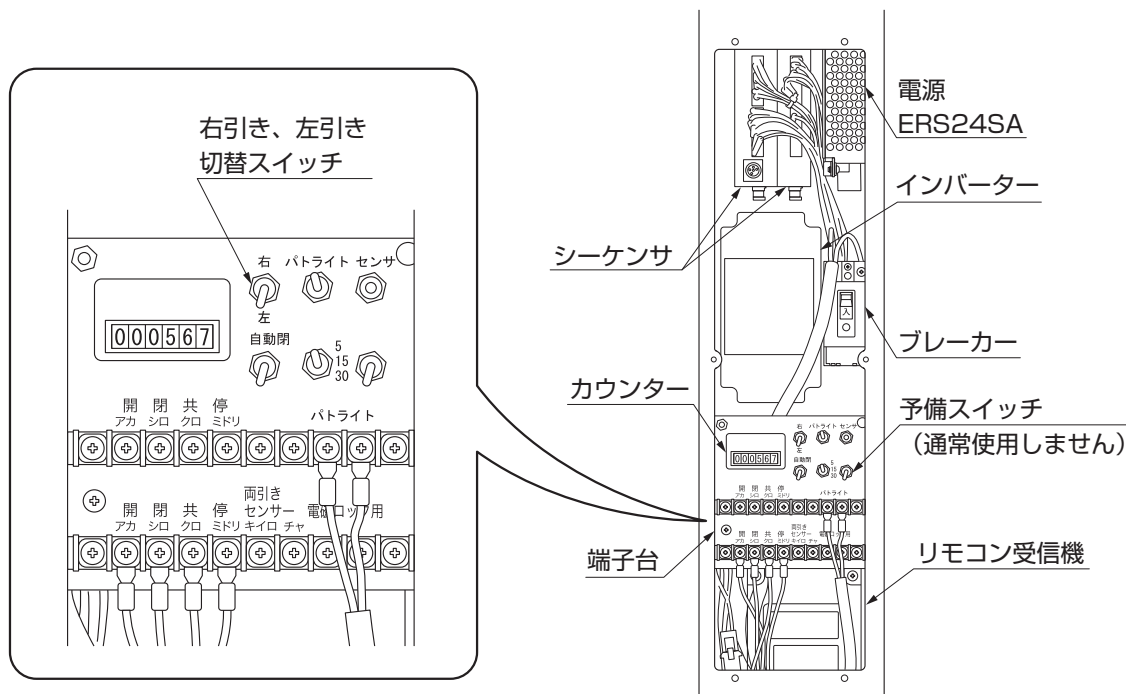
図13-4 センサー柱（受光側）

①センサー柱（投光側）とセンサー柱（受光側）の光軸を合わせるように組付けてください。

ポイント

- センサーの特性上、図13-2、13-3のような組付け時には、センサーが誤作動したり、引戸が開閉しなくなるためセンサーは必ず光軸を合わせて取付けてください。（図13-2、13-3参照）
- センサー柱（受光側）には緑と赤のLEDがあります。（図13-4参照）
- 緑色のみ点灯している時・・・光軸が一致していない状態
- 緑色と赤色が点灯している時・・・光軸が一致している状態

14. 右引き、左引きの切替について



- ①コントロールカバーを外してください。
- ②引戸が右引きのときは、右吊元に、左引きのときは左吊元に切替スイッチを動かしてください。
- ③コントロールカバーを取付けてください。

補足

- 初期設定は右引きになっています。左引きでお使いの場合は、切替スイッチを動かしてください。

15. マグネットスイッチの取付け

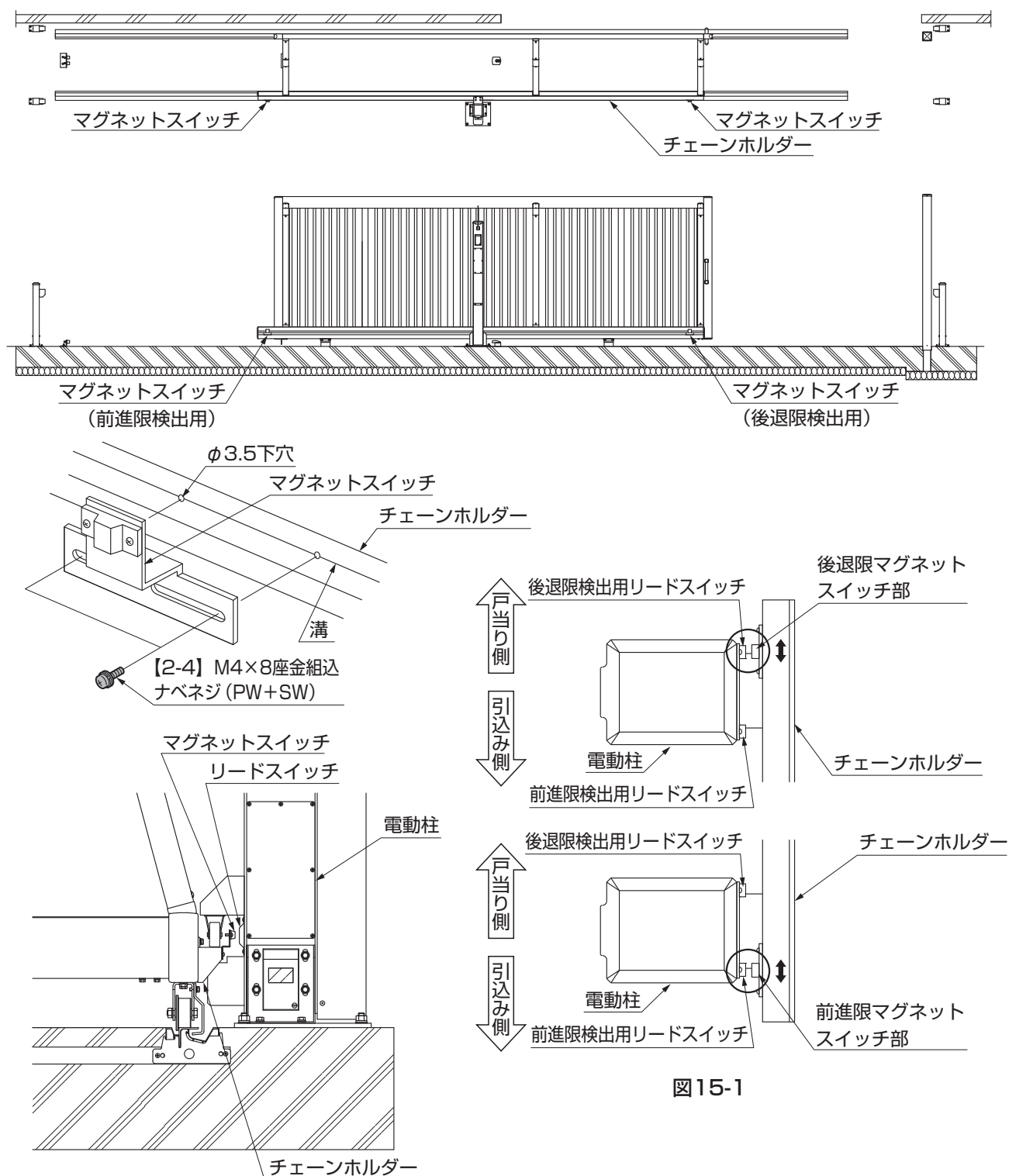
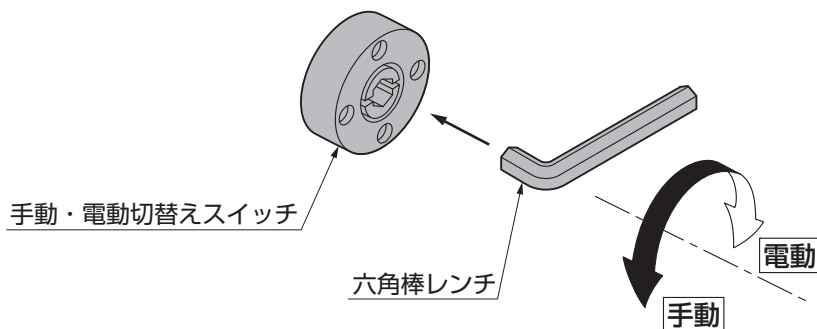
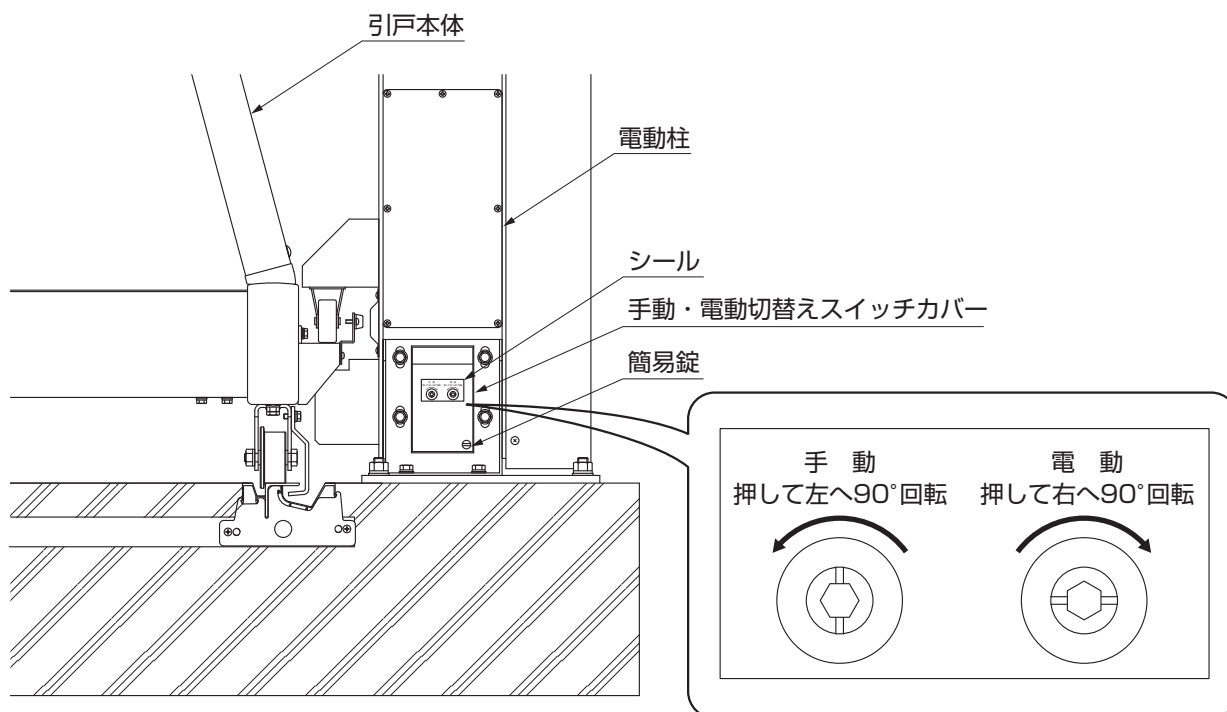


図15-1

- ① マグネットスイッチ裏面には仮止めの両面テープが貼ってありますので、目測で図15-1の位置になるよう取付けてください。
- ② リードスイッチとマグネットスイッチの中心が合うように、実際に動かしてみて位置を決めてください。
- ③ チェーンホルダーの溝にドリルでφ3.5の下穴をあけ、【2-4】で固定してください。

16. 手動と電動の切替え方法について



- ①手動・電動を切替える場合は、手動・電動切替えスイッチカバーの簡易錠をコイン等で開位置（溝が水平）まで回してカバーを開け、カバーに貼付けられたシールに従って付属の六角棒レンチで切替えてください。

補足

- 電動柱は工場出荷時は手動になっています。
- 六角レンチは蓋の裏側に取付けてあります。

17. 引戸有効開口幅の電動柱への登録

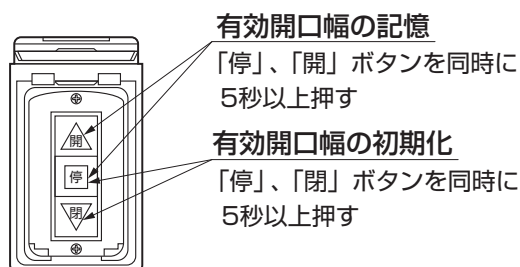


図17-1

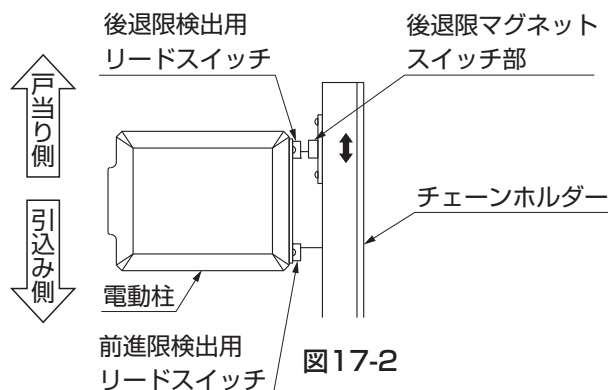


図17-2

表17-1 引戸有効開口幅の電動柱への登録方法

手順	作業内容	補足内容
1	電動・手動切換えスイッチを手動にしてください。	「16. 手動と電動の切替え方法について」参照
2	引戸を手動のまま動かし全閉状態にしてください。	
3	電動・手動切換えスイッチを電動にしてください。	「16. 手動と電動の切替え方法について」参照
4	電動柱押しボタンスイッチの「停」ボタンと「閉」ボタンを同時に5秒以上押してください。	有効開口幅の初期化 「停」ボタンと「閉」ボタンを同時に押し続けると、柱内部で“カチカチカチ”と短い連続音がします。カチカチ音が鳴り止むと、有効開口幅が初期化されます。
5	電動柱押しボタンスイッチの「開」を押し続けて、引戸を全開状態にしてください。	記憶位置が4.の操作で初期化されていますので、ボタンから手を離すと途中で引戸が停止することがあります。全開位置に引戸が到達するまで、「開」ボタンを押し続けてください。
6	引戸が全開位置にあり、後退限マグネットスイッチが検出リードスイッチ位置まで来ていることを確認してください。（図17-2参照）	「15. マグネットスイッチの取付け」参照
7	電動柱押しボタンスイッチの「停」ボタンと「開」ボタンを同時に5秒以上押してください。	有効開口幅の記憶 「停」ボタンと「開」ボタンを同時に押し続けると、柱内部で“カチ、カチ、カチ”と長めの断続音がします。カチ、カチ音が鳴り止むと、有効開口幅が電動柱に記憶されます。
8	柱押しボタンスイッチの「開」、「閉」ボタンを押して引戸が正常に作動することを確認してください。	

ポイント

- 有効開口幅が正常に記憶されると、引戸は各開閉限約1m手前から減速し、速度を落とした状態で開閉限で停止します。約1m手前から減速せずに引戸が開閉限まで動いてしまう場合は、手順4から操作し有効開口幅の登録をしてください。
- 有効開口幅の記憶は施工時に1度登録することで、停電など主電源が切れた状態でも記憶しています。工場出荷時には有効開口幅10m相当の設定で出荷されています。

注意

- 有効開口幅の登録をせずに引戸を使用すると、破損の原因となります。必ず電動柱への有効開口幅の登録を行ってください。

18. リモコンについて

※リモコン送信器の実用到達距離は約10mなので、その範囲内で操作してください。

18-1 電池の入れ方

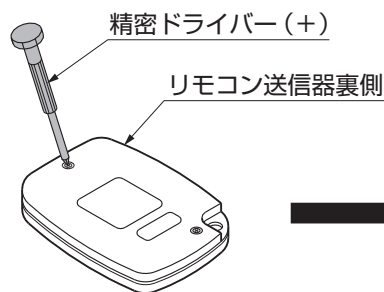


図18-1

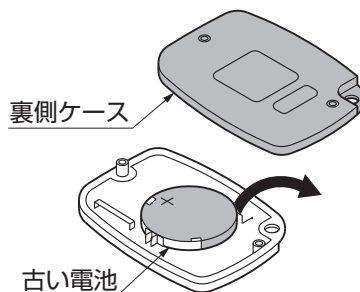


図18-2

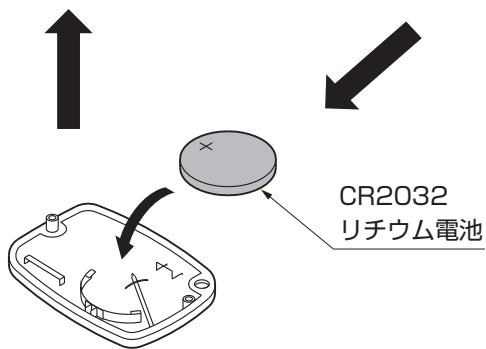


図18-3

補足

- リモコンの到達距離が短くなったり、動作表示灯が点滅しなくなった場合は、速やかに新しい「リチウム電池CR2032」に交換してください。
- 電池寿命は、1日10回（開・閉・停いづれか1操作／回）の使用で約5年です。

- ①リモコン送信器の裏側のネジ（2箇所）を精密ドライバー等ではずしてください。（図18-1参照）
- ②リモコン送信器の裏側のケースをはずし古い電池を取り出してください。（図18-2参照）
- ③新しい電池を「+マーク」が見える向き（上側）にはめ込んでください。（図18-3参照）
- ④はずしたケースを取付けてください。（図18-1参照）

注意

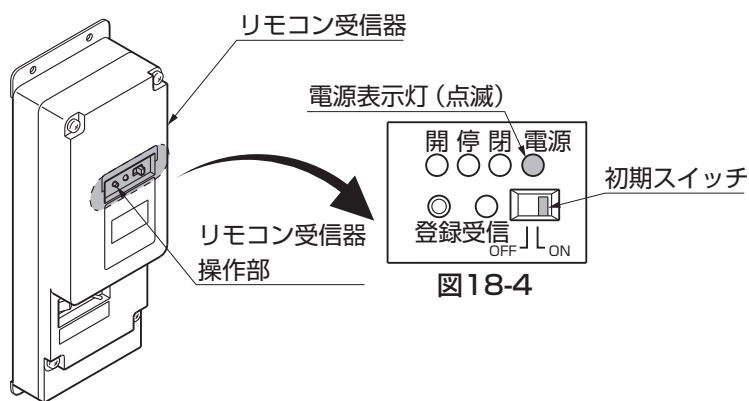
- 電池の極性「+、-」を確認の上セットしてください。
- 電池交換の際は、水分やほこり等が入らないように注意してください。また、回路部に触れぬようにご注意ください。

18. (つづき)

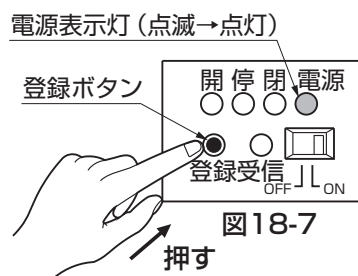
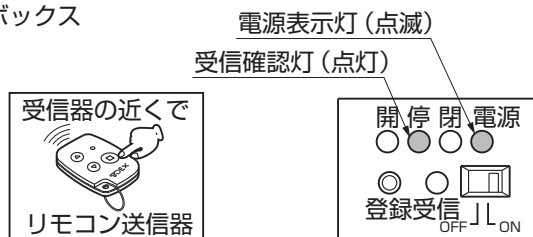
18-2 登録方法

※付属のリモコンは、出荷時に同梱されている電動柱のみに登録されています。

「両引き」で使用する場合は、もう一方の電動柱にリモコンを追加登録する必要がありますので、「18-3 追加登録方法」を参照し、登録してください。



コントロールボックス



- ①電動柱のコントロールカバーをはずしてください。
- ②リモコン受信器の初期スイッチを「ON」にしてください。

補足

- 電源表示灯が点滅（緑色）します。（図18-4参照）
- 点滅しない場合は、初期スイッチを一度「OFF」にし、もう一度「ON」側にします。

- ③リモコン受信器の近くで、登録するリモコン送信器の「停止」ボタンを押してください。（図18-5参照）

補足

- リモコン受信器の受信確認灯「停」が点灯（赤色）し、送信器登録が完了します。（図18-6参照）

- ④リモコン送信器の登録完了後、リモコン受信器の登録ボタンを押して登録または電源表示灯が「点灯」になるまで待ってください。（図18-7参照）

補足

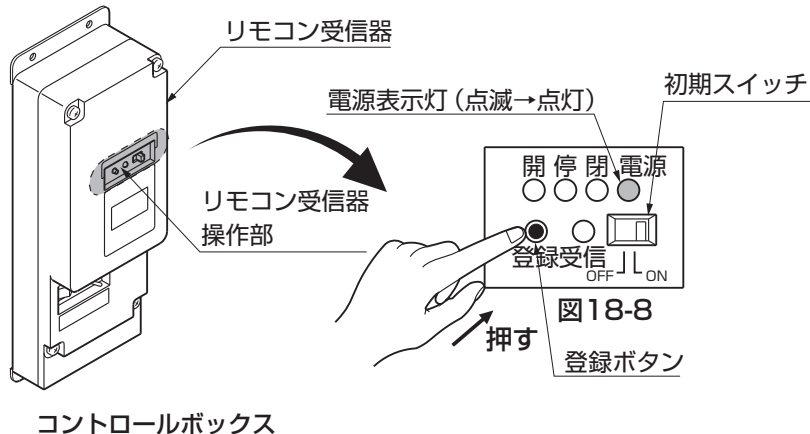
- 電源表示灯が「点灯」になり、受信器登録が完了します。

- ⑤はずしたコントロールカバーを取付けてください。ネジの締め忘れのないように注意してください。

ポイント

- 受信器への登録は、必ず電源表示灯が「点滅している1分間」に操作してください。
- 初期スイッチを「OFF」にすると、リモコン送信器の登録をすべて抹消します。登録が抹消した場合、リモコン送信器での操作はできなくなります。

18-3 追加登録方法 ※両引きの場合には左右両方の電動柱にリモコンの登録をしてください。



コントロールボックス

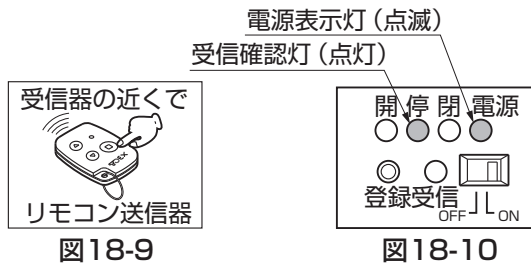


図18-9

図18-10

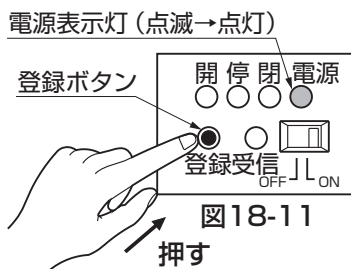


図18-11

ポイント

- リモコン送信器を増やす場合、初期スイッチは「ON」の状態に登録してください。

- ①電動柱のコントロールカバーをはずしてください。
- ②リモコン受信器の登録ボタンを押してください。(図18-8参照)

補足

- 電源表示灯が点滅(緑色)します。(図18-8参照)
- リモコン送信器は、最大16個が「登録可能」です。

- ③リモコン受信器の近くで、登録するリモコン送信器の「停止」ボタンを押してください。(図18-9参照)

補足

- リモコン受信器の受信確認灯「停」が点灯(赤色)し、送信器登録が完了します。(図18-10参照)

- ④リモコン送信器の登録完了後、リモコン受信器の登録ボタンを押して登録または電源表示灯が「点灯」に変わるまで待ってください。(図18-11参照)

補足

- 電源表示灯が「点灯」になり、受信器登録が完了します。

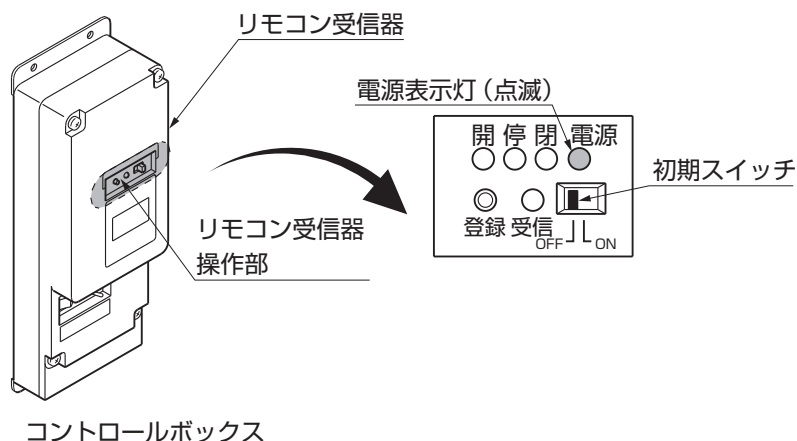
- ⑤はずしたコントロールカバーを取付けてください。ネジの締め忘れのないように注意してください。

ポイント

- リモコン送信器を増やす場合、初期スイッチは絶対に動かさないでください(「ON」側のままで固定)。「OFF」にすると、登録をすべて抹消し、リモコン送信器での操作はできなくなります。
- 受信器への登録は、必ず電源表示灯が「点滅している1分間」に操作してください。

18. (つづき)

18-4 登録取消し方法



- ①すべての登録を取り消す場合は、リモコン受信器の初期スイッチを「OFF」側にしてください。

19. 引戸開閉操作の確認

19-1 リモコン送信器での操作方法

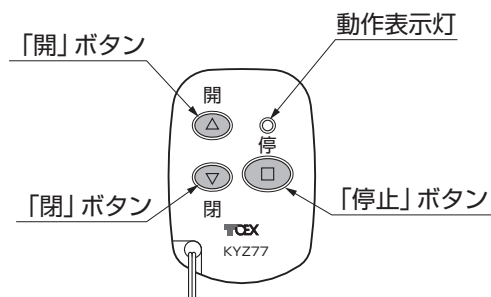


図19-1 MDC-3リモコン送信器

- ①「開」ボタンを1回押して、2秒以内にもう1回押してください。動作表示灯が点滅して、扉が開きます。
- ②「停止」ボタンを押してください。動作表示灯が点滅して、扉が停止します。
- ③「閉」ボタンを1回押して、2秒以内にもう1回押してください。動作表示灯が点滅し、扉が閉じます。

補足

- リモコン送信器の実用到達距離約10メートル以内で操作してください。
- 「開または閉」ボタンを2回押す間隔が2秒を超えると送信しませんので注意してください。
- 安全上「停止」ボタンに限り1回押すだけで送信するようになります。
- 開／閉動作中に逆方向の開または閉動作するときは、必ず一度「停止」ボタンを押してから次の押ボタンを押してください。

19-2 電動柱押ボタンスイッチでの操作方法

※電動柱に付いている押ボタンを押して扉を開閉してください。

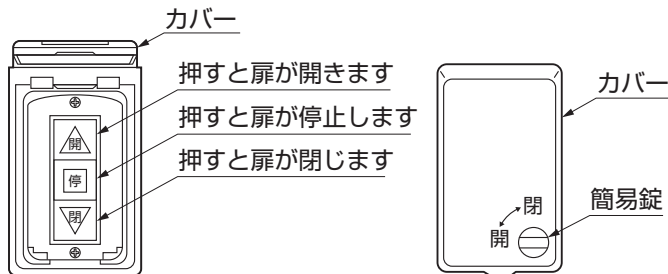


図19-2 電動柱押ボタンスイッチ

- ①簡易錠をコイン等で開位置（溝が水平）まで回してカバーを開けてください。
- ②開ボタンスイッチを押すと扉が開きます。
- ③停ボタンスイッチを押すと扉が停止します。
- ④閉ボタンスイッチを押すと扉が閉じます。
- ⑤カバーを閉め、簡易錠をコイン等で閉位置（溝が垂直）まで回し施錠してください。

⚠ 注意

- イタズラや誤操作による損害を防ぐために、操作時以外はカバーをロックしてください。

20. 施工後の点検

20-1 引戸本体の確認

- ①すべての部品の取付け後、電動柱下部のクラッチ解除レバーを再度手動にして、引戸本体がスムーズに作動するか確認してください。
- ②次にクラッチ解除レバーを電動にして引戸を作動してください。前ストッパー、後部ストッパーに引戸が当たる直前に駆動モーターが切れるタイミングになるよう、マグネットスイッチを調整し直してください。
- ③調整後、再度電動で引戸を作動させ全開状態、全閉状態でクラッチ解除レバーを手動に切替えてください。スムーズにできれば調整終了です。

20-2 センサー作動の確認

(1) 光電センサー

- ①センサー柱内に透過型光電センサーがGLから約64cmの位置に組込まれていて、障害物を検出した場合引戸は停止します。センサーの確認方法として、手などでセンサーを遮光し引戸が確実に停止するかテストを行なってください。停止後、引き続き開閉操作を行なうと引戸は作動します。

20. (つづき)

20-3 押えローラーの調整

※手動電動切替スイッチが電動の状態のとき、引戸本体が閉めた状態から手で簡単に動いてしまう場合は、以下の方法でブレーキ力を調整してください。

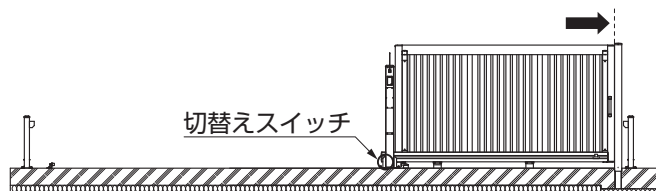


図20-1 片開き

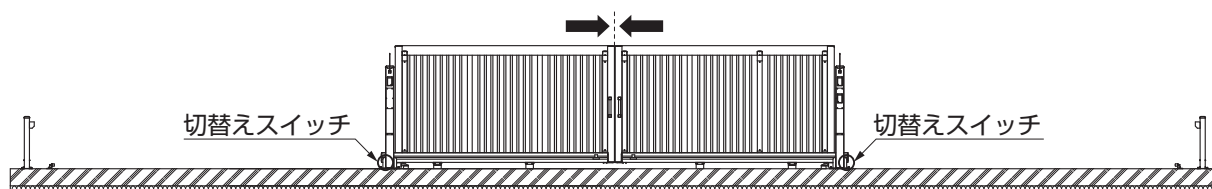


図20-2 両開き

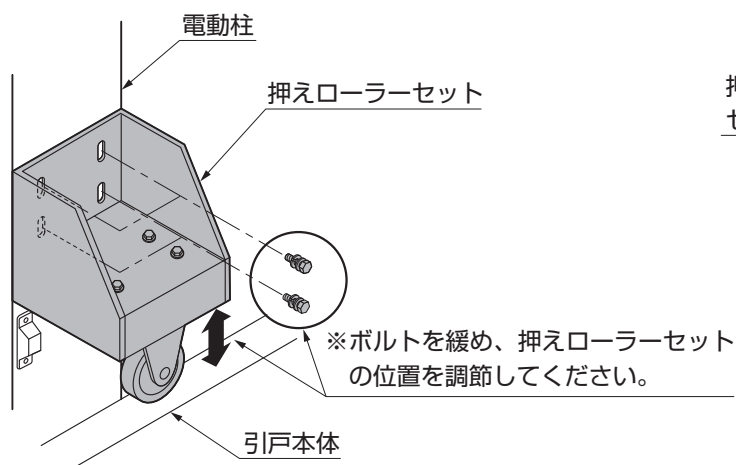


図20-3

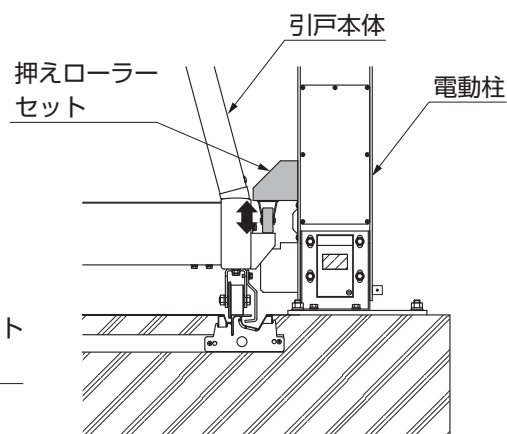


図20-4

- ①引戸を閉めた状態にし、手動電源切替スイッチを手動に切替えてください。(図20-1、図20-2参照)
- ②引戸を閉めた状態で、押えローラーセットのローラーと引戸本体が浮かないよう、押えローラー取付けボルト(M6×15六角ボルト)で調節してください。(図20-3参照)

ポイント

- 押えローラー取付けボルトで調節したあと一度本体を動かし、本体全体にローラーが押えられているか確認してください。

- ③手動電動切替スイッチを電動に切替え、再度確認ください。

メモページ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



株式会社 LIXIL